

I S S N 0915-4736

平成 20 年 度

岡山県総合畜産センター一年報

岡山県総合畜産センター

目 次

| | | |
|-----|-----------------|----|
| I | 技術開発と指導対策 | 1 |
| 1 | 研究開発の基本方針 | 1 |
| 2 | 研究及び事業の課題 | 1 |
| (1) | 試験研究課題 | 1 |
| (2) | 各種事業 | 2 |
| 3 | 研究及び事業の成果 | 3 |
| 4 | 技術の普及浸透 | 10 |
| (1) | 各種研修会等の実施 | 10 |
| (2) | 研修生・実習生の受け入れ状況 | 17 |
| 5 | 視察者の来所状況 | 17 |
| 6 | 業務相談件数 | 17 |
| II | 成果の発表と広報活動 | 18 |
| 1 | 研究発表 | 18 |
| 2 | 技術解説 | 19 |
| 3 | その他 | 20 |
| III | 総務 | 21 |
| 1 | 沿革 | 21 |
| 2 | 位置及び交通 | 21 |
| 3 | 地積 | 21 |
| 4 | 公有財産 | 21 |
| 5 | 職員の状況 | 24 |
| (1) | 行政組織 | 24 |
| (2) | 定数現員対照表 | 24 |
| (3) | 職員一覧表 | 25 |
| 6 | 予算及び決算 | 27 |
| (1) | 平成20年度一般会計歳入決算書 | 27 |
| (2) | 平成20年度一般会計歳出決算書 | 27 |
| 7 | 職員の研修 | 28 |

| | |
|-------------------------|----|
| IV 業 務 | 29 |
| 1 乳用牛飼養管理の概要 | 29 |
| (1) 乳用牛の移動状況 | 30 |
| (2) 牛乳の生産と処理 | 31 |
| (3) 超高能力牛群造成高度利用システム化事業 | 31 |
| (4) 牛の受精卵の雌雄判別 | 31 |
| (5) 各共進会への出品 | 31 |
| 2 和牛飼養管理の概要 | 32 |
| (1) 和牛の移動状況 | 32 |
| (2) 凍結精液の生産と売り払い状況 | 33 |
| (3) ジーンバンク受精卵保存内容 | 34 |
| (4) 優良雌牛利用対策事業受精卵譲渡内容 | 34 |
| 3 豚の飼養管理の概要 | 35 |
| (1) 豚の移動状況 | 35 |
| (2) 種畜及び精液の譲渡状況 | 35 |
| 4 鶏の飼養管理の概要 | 36 |
| (1) 飼養種禽の種類及び移動状況 | 36 |
| (2) 種卵のふ化及び雛の処理状況 | 36 |
| (3) 卵の生産及び処理状況 | 36 |
| 5 飼料作物の栽培及び草地の維持管理 | 37 |
| (1) 主要農機具 | 37 |
| (2) 牧草・飼料作物の生産と利用仕向 | 38 |
| (3) 貯蔵飼料の生産量 | 38 |
| V 公共育成センター | 39 |
| VI 畜産経営環境技術センター | 41 |
| VII 農業大学校旭分校 | 43 |
| 〔付〕 | |
| 主 な 施 設 | 44 |

I 技術開発と指導対策

1 研究開発の基本方針

畜産経営を取り巻く情勢は、経営者の高齢化と担い手の減少、鳥インフルエンザやBSE等の国際的な衛生対策、環境汚染問題、さらには深刻な景気悪化による畜産物の販売不振など厳しい環境にある。

こうした状況のなかで、当センターは、本県における畜産の技術開発及び普及の拠点として、長期的な視点に立った先端技術の開発や循環型社会の構築に資する有機廃棄物利用技術の実用化等、変化する畜産情勢に対応するとともに、畜産農家の要望に沿った各種試験研究に取り組んでいる。

平成20年度は、地域環境と調和した循環型社会の構築を目指した畜産業の確立に向け、食品製造副産物の飼料化や畜産バイオマスである家畜排泄物の処理技術について研究するとともに、高品質な畜産物の低コスト生産に資するため、受精卵移植などを利用した先端技術の開発と種畜の改良等効率的な試験研究を推進した。

重点課題として次の試験研究に取り組んだ。

- (1)生産性向上のための哺育育成システムの構築
- (2)安全飼料によるストレス緩和技術の検討
- (3)バイオマスを活用した効率的エネルギー回収技術の研究
- (4)簡易・低コストな環境負荷ガス低減技術と脱臭技術の実証試験

2 研究及び事業の課題

平成20年度においては、次のとおり試験研究に課題及び事業課題に取り組んだ。

(1) 試験研究課題

| 区 分 | 新 規 継 続 | 試 験 研 究 課 題 | 研 究 期 間 |
|--|------------|---|------------------|
| 高品質な農 林水産物の 生産振興 | 新 規 | 生産性向上のための哺育育成システムの構築 (1) 効率的で低コストな哺育育成システムの確率 (2) 放牧と水田を組み合わせた周年屋外飼養技術の確立 | H20～22 H20～22 |
| | 継 続 | 近赤外線分光法による低腹腔内脂肪種鶏選抜技術を利用した種鶏選抜 | H18～22 |
| 安全・安心 な農林水産 物の生産と 地産地消運 動の推進 | 継 続 | 地域資源活用型TMRセンター構築による飼料自給率向上システムの確立 | H18～22 |
| | 新 規 | 安全飼料によるストレス緩和技術の検討 | H20～22 |
| 環境と調和 した農林水 産業の推進 | 継 続 | 水性植物等の炭化物を利用したふん尿処理技術の検討 | H18～20 |
| | 継 続 | 利用性の高い堆肥の供給体制の確立 | H19～20 |
| | 新 規 | バイオマスを活用した効率的エネルギー回収技術の研究 | H20～22 |
| | 新 規 | 簡易・低コストな環境負荷ガス低減技術と脱臭技術の実証試験 | H20～22 |

| 区 分 | 新 規 継 続 | 試 験 研 究 課 題 | 研 究 期 間 |
|----------------------|------------|------------------------------------|------------|
| 活力ある農 林水産業の 推進 | 継 続 | 機能性成分を生かしたジャージー生産物の付加価値向上 技術の開発 | H19～20 |
| | 継 続 | DNAマーカーを指標とした牛の育種手法の開発に關する 研究 | H17～ |
| | 継 続 | 受精卵移植における胚細胞利用技術の検討 | H16～20 |
| | 継 続 | I Tを活用した発情検知システムの開発 | H18～21 |

(2) 各種事業

| 区 分 | 新 規 継 続 | 事 業 名 | 事 業 期 間 |
|----------------------|------------|--|------------|
| 活力ある農 林水産業の 推進 | 新 規 | ジャージー種の乳量・乳成分の現状把握 | H20 |
| | 継 続 | 超高能力牛群造成高度利用システム化事業 | H 5～ |
| | 継 続 | 和牛の産肉能力検定事業並びに和牛人工授精及び種畜改良 | S43～ |
| | 継 続 | 肉用牛の改良促進調査研究 －BLUP法アニマルモデルによる育種価評価－ | H元～ |
| | 継 続 | 肉用牛広域後代検定推進事業（育種牛群整備事業） | H12～ |
| | 継 続 | 岡山和牛（雌）の改良と遺伝子保存 | H15～ |
| | 継 続 | 種豚改良 | H元～ |
| | 継 続 | 種鶏改良 | H元～ |

3 研究及び事業の成果

平成20年度における試験研究及び事業の主要成果は、次のとおりである。

(経営開発部)

| 試験研究課題 | 成果の概要 |
|---|--|
| <p>機能性成分を生かしたジャージー生産物の付加価値向上技術の開発</p> <p>平19～20</p> | <p>たんぱく質やカルシウム等が豊富なジャージー牛乳の特長を生かして「贅沢ヨーグルト」の開発を行った。また、機能性成分（血圧上昇抑制ペプチド）産生能の高い乳酸菌2株（<i>Lactobacillus herveticus 130B4</i>、<i>Lactobacillus delbrueckii subsp. lactis 306701</i>）の培養条件を検討した結果、発育至適温度は、いずれも36℃であった。機能性成分産生は、<i>L. herveticus 130B4</i>の36℃、32時間培養でACE阻害活性が高かった。</p> <p>牛肉に含まれる体脂肪燃焼効果のあるL-カルニチン、貧血予防効果のあるヘム鉄量を測定した結果、L-カルニチン含量は、ジャージー種経産牛がジャージー種去勢肥育牛、ホルスタイン種去勢肥育牛および黒毛和種雌肥育牛に比べ有意に低かった。ヘム鉄含量では、ジャージー種がホルスタイン種、黒毛和種に比べて有意に高かった。</p> |
| <p>家畜DNA育種改良推進事業 -DNAマーカーを指標とした牛の育種手法の開発に関する研究-</p> <p>平17～</p> | <p>県種雄牛「花茂勝2」号の2次解析として、去勢産子379頭を用い、3本の染色体に配置した計63個のDNAマーカーについて遺伝子型を判定し、得られた遺伝子型データと枝肉成績との連鎖解析を実施した。</p> <p>その結果、枝肉重量に関して3カ所、ロース芯面積に関して1カ所のQTL領域が特定された。</p> |
| <p>ジャージー種の乳量・乳成分の現状把握</p> <p>平20</p> | <p>ジャージーの改良を効率的に進めるため、岡山県の牛群検定情報分析センターに蓄積しているジャージー、ホルスタインの検定記録から泌乳曲線を作成し、ジャージーの泌乳特性を把握することを目的に行った。その結果、乳量は初産が最も低く産次が進むにしたがって増加する傾向にあり、泌乳曲線も2産以上と比較してピーク位置が低く、曲線がなだらかであった。また、ピークまでの日数も初産が43日、2産、3産、4産は初産より早くなっていた。</p> <p>しかし、</p> <ul style="list-style-type: none"> ①ピーク乳量到達日がホルスタインに比べ早い ②乳量持続率は低い <p>など、ホルスタインと異なる点があり、品種特性に違いがあることが考えられた。</p> |

| 試験研究課題 | 成果の概要 |
|---|--|
| <p>生産性向上のための哺育育成システムの構築 (1) 効率的で低コストな哺育育成システムの確立 平20～22</p> | <p>安全で低コストな高品質粉末乾燥初乳を開発するとともに、開発した粉末乾燥初乳を利用した哺育技術を確立する。また、和牛及び乳用種子牛の育成段階において、稲WCSや麦わらサイレージ等の自給粗飼料を主体とした低コスト育成管理技術を検討した。</p> <p>粉末乾燥初乳の開発では、初乳のIgG量は個体差があるものの、6ヶ月間の冷凍保存では低下することはなかった。</p> <p>子牛の低コスト育成管理技術では、和牛では、稲WCSと稲わらサイレージ給与での嗜好性及び発育を検討した結果、去勢子牛において嗜好性及び発育性ともに稲WCS区が良好であった。雌子牛についてはデータ集積中である。また、乳用種では、麦わらサイレージとスーダングラス給与での嗜好性及び発育を検討した結果、麦わらサイレージ区の方が嗜好性及び発育性ともに劣っていた。</p> |
| <p>地域資源活用型TMRセンター構築による飼料自給率向上システムの確立 平18～22</p> | <p>飼料自給率を向上させるため、食品副産物・農産副産物・自給飼料を有効に利用できるTMR調製技術を検討した。</p> <p>モヤシ屑は、飼料成分はCPが高く、泌乳性に問題がないことから、乳用牛用TMRとして利用可能であることがわかったので、農家実証試験を行った。アン粕は、CPが約13%、NFEが約40%であり、ふすまによる水分調整により消化性が高いことから、飼料成分は飼料として有望であり、また、サイレージ化して貯蔵も可能であった。ブロッコリー残渣は、水分が約93%と高く、サイレージ調整することによりカラシナ臭が発生したことから、利用には課題が残った。</p> |
| <p>受精卵移植における胚細胞利用技術の検討 平16～20</p> | <p>受精卵移植における受胎率向上を図るため、妊娠維持に関係があるといわれている栄養膜小胞の活用法と性判別胚の品質向上を図るサンプリング方法や保存方法を検討した。</p> <p>栄養膜小胞と胚を共移植し、栄養膜小胞の受胎促進作用を検討したが、受胎率の向上は認められなかった。</p> <p>高品質な性判別胚を作出する透明帯切開に用いる機材として眼科用メス(マニーナイフ)を検討したが、従来から用いているガラスニードルよりは劣っていた。また、作出した透明帯切開法による性判別胚を緩慢凍結し、移植を実施したところ、受胎率41.7%(5/12頭)が得られ、通常胚の受胎率と差がなかった。</p> <p>また、超急速ガラス化保存した性判別胚のストロー内融解法の検討した結果、ストロー内融解し生存確認後の移植では、受胎率50.0%(10/20頭)であり、庭先融解後直接移植では、受胎率60.0%(12/20頭)であり、超急速ガラス化法であるクライオトップ法で保存した性判別胚は、生存を確認することなく移植しても高受胎率を得られた。</p> |

(大家畜部)

| 試験研究課題 | 成果の概要 |
|--|---|
| <p>超高能力牛群造成高度利用システム化事業</p> <p>平5～</p> | <p>県下牛群検定加入酪農家の牛群改良を促進するため、当センターで繋用する超高能力乳用牛から採卵し、雌雄判別を実施した雌受精卵を中心に譲渡している。平成20年度の譲渡受精卵は163卵(うち雌卵159卵)で受胎率59.1%である。事業開始からの雌生産数は579頭となり、このうち444頭が搾乳に供され、平均乳量10,561kgで県下平均を約千kg上回っている。</p> <p>また、地域に存在する優良牛からの効率的な後継牛取得を促進するため、現地で採卵した受精卵に対して雌雄判別を46件、90卵の性判別を実施した(判別率100%、雌率43.3%)。</p> |
| <p>肉用牛広域後代検定推進事業(育種牛群整備事業)</p> <p>平12～</p> | <p>受精卵移植技術を活用して黒毛和種優良雌牛群の整備ならびに種雄牛作出の効率化を図るため、当センター繋養の優良和牛から採卵し、受精卵を譲渡している。平成20年度は延べ68頭から610個の正常卵を回収し、370卵を譲渡、受胎率58.2%であった。また、平成19年度譲渡受精卵のうち、雌子牛41頭、雄子牛49頭が生産され、流産が19頭発生した。</p> <p>この譲渡事業の中からこれまでに基幹種雄牛2頭が選抜され、4頭が待機種雄牛として検定中である。</p> |

(和牛改良部)

| 試験研究課題 | 成果の概要 |
|--|---|
| <p>生産性向上のための哺育育成システムの構築</p> <p>(2) 放牧と水田を組み合わせた周年屋外飼養技術の確立</p> <p>平20～22</p> | <p>和牛繁殖経営において低コスト、省力化のため放牧が推進されている。冬期間の放牧は草量の確保の面から困難であるが、冬期間の放牧期間の延長のため、水田裏作においてイタリアンライグラスの冬期放牧利用技術を検討し、あわせて水田に作付けした、稲WCSを補助飼料とした周年屋外飼養技術について検討した。</p> <p>水田裏を活用した冬期放牧においては、イタリアンライグラスの早生、中生、晩生が有望であったが、極早生では11月下旬に雪害がみられた。また、12月～4月までの冬期放牧のうち、イタリアンライグラスのみ利用の放牧時は体重、BCSともに問題はみられなかった。また、稲WCSの制限給与では屋外給与施設としてコンパネ等で簡易な給与装置を試作したところ、無駄なく採食したが、一部牛が破壊することがあった。</p> |

| 試験研究課題 | 成果の概要 |
|---|---|
| <p>ITを活用した発情検知システムの開発</p> <p>平18～21</p> | <p>岡山和牛繁殖雌牛の1年1産を実現するための手法としてITを活用した安価な発情検知システムを検討した。</p> <p>発情検知センサーの装着については、H18年度に専用ベルトを開発したが、再度装着性のより簡単な形状へと改良した。</p> <p>また、従来のセンサーを用いてシステムによる発情検知を調査したところ、システムでの検知回数は行動量では、52回であり、真の発情31回すべて捕らえており、発見率は100%であったが、正答率は59%であった。乗駕では、システムの発情検知は34回であり、真の発情のうち27回を捕らえ、発見率は87%、正答率は78%であった。</p> <p>センサーの精度向上のため、センサーの改良にも取り組み、新型センサーでのデータの蓄積を実施中である。</p> <p>今後は発情だけでなく、分娩検知のための問題解決を行いつつ、普及性が高く安価なシステムの確立に向け開発試験を継続する。</p> |
| <p>和牛の産肉能力検定事業並びに和牛人工授精及び種畜改良</p> <p>昭43～</p> | <p>和牛の雄牛について、優秀種雄牛の早期作出を行うため、直接検定並びに後代検定を実施した。また、家畜人工授精のメインセンターとして凍結精液の生産・保管・配布を行った。</p> <p>平成20年度には10頭の直接検定を実施し、そのうち5頭の検定が終了し、検定成績、血統、体型及び優良遺伝子領域の保有状況等を総合的に評価した結果、2頭を候補種雄牛として選抜した。</p> <p>また、9頭の種雄牛について後代検定を実施し、「銀嶺」号「鈴花3」号、「新北紀」号の検定が終了した。</p> <p>凍結精液については、新たに12,208本生産し、県内へ5,032本配布した。</p> |
| <p>肉用牛の改良促進調査研究 －BLUP法アニマルモデルによる育種価評価－</p> <p>平元～</p> | <p>岡山和牛の枝肉形質の遺伝的な改良を推進するため、BLUP法アニマルモデルによる育種価を推定し、種雄牛並びに繁殖雌牛の選抜に活用した。</p> <p>枝肉成績を持つ個体は18,288件であり、各形質の平均を見ると、枝肉重量430.7kg、ρ-ス芯面積51.8cm²、BMSNo. 5.0であり、と畜月齢は28.7カ月齢であった。</p> <p>育種価の判明個体数は、種雄牛が759頭、繁殖雌牛が15,572頭の計16,331頭であった。</p> |

| 試験研究課題 | 成果の概要 |
|----------------------------|---|
| 岡山和牛(雌)の改良と遺伝子保存 平15～20 | <p>岡山和牛(雌)の改良および選抜の指標とするため、子牛市場における子牛の初期発育の調査・分析を行った。</p> <p>H15年7月～H19年10月までの去勢子牛4,980頭、雌子牛3,810頭、計8,790頭のデータをBLUPアナルモデルにより遺伝的分析実施。体高、体重の遺伝率は0.55、0.62と高い遺伝率を示した。子牛の初期発育に係る母牛の年齢の効果では、5才～9才までの産子でプラスの効果が見られた。また、子牛の初期発育に対する地域の効果では、真庭地区で体高、体重ともにプラスの効果が見られた。現在、H19年11月～H20年10月分(去勢子牛1,085頭、雌子牛830頭)を加え、全国和牛登録協会に解析を依頼中である。また、子牛市場データについては、継続して蓄積している。</p> <p>岡山和牛(雌)の遺伝子保存として、利花系55卵を受精卵で凍結保存した。雌系統でみると3系統7頭から採卵保存した。これまでの保存受精卵は藤良系計201卵、安達系計202卵、清国・下前系計58卵、利花系計122卵。雌系統で44系統を卵で保存。藤良系繁殖雌牛を新たに3頭購入した。</p> |

| 試験研究課題 | 成果の概要 |
|---|---|
| 近赤外線分光法による低腹腔内脂肪種鶏選抜技術を利用した種鶏選抜 平18～20 | <p>鶏の腹腔内脂肪の蓄積は、産卵率の低下や脂質代謝障害による脂肪肝等により生産効率の低下を招いている。当センターでは平成17年に近赤外線分光法により、生体のままで脂肪量を推定できる技術を開発した。</p> <p>この技術を活用して、平成20年度の種鶏、ロードアイランドレッド種209羽、横斑プリマスロック種207羽について近赤外線測定した後、作成した検量線で個体ごとの腹腔内脂肪量を推定し、種鶏の選抜形質とした。平均値はロード雌5.05g、横斑雌10.46gであった。</p> |
| 安全飼料によるストレス緩和技術の検討 平20～22 | <p>未利用となっている水産資源の家畜飼料への利用性を検討した。原物では長期の保存に適さないため、発酵処理した物を微量養鶏飼料に混ぜ給与したところ、発酵ワカメを給与することで血中の中性脂肪値が有意に低下し、コレステロール値も低下する傾向がみられた。中性脂肪値は生体の脂肪蓄積量と相関が高いとされており、肉用鶏で課題となっている腹腔内脂肪の蓄積を軽減するのに有効であることが示唆された。</p> |

| 試験研究課題 | 成果の概要 |
|--|---|
| <p>水生植物等の炭化物を利用したふん尿処理技術の検討</p> <p>平18～20</p> | <p>児島湖の水質浄化対策として刈り取られているヨシ、ヒシ等の水生植物を有効利用するため、これら水生植物を原料として製造された炭化物を家畜ふん尿処理に活用する技術を検討した。</p> <p>ろ過資材としてヒシ炭化物及び木質系炭化物それぞれ0.01m³を用い、畜舎排水50Lをろ過したところ、COD、T-P、着色度についてヨシ炭化物の除去率が高かった。特にT-Pについては、50L投入後の除去率が木質系炭化物では24.3%であったが、ヨシ炭化物は97.2%と高く、ろ過資材として有用である可能性が示唆された。</p> |
| <p>利用性の高い堆肥の供給体制の確立</p> <p>平19～20</p> | <p>作物が要求する肥料成分を過不足なく含み、散布や流通に適した利便性の高いペレット堆肥を製造するため、肥料成分等を調整した家畜ふん堆肥をペレット化する際の諸条件について検討するとともに、その保存性についても検討した。</p> <p>その結果、当センターが有するローラー・ディスクダイ方式の造粒機で作成したいずれのペレットにおいては、同一原料であれば、径の違い(3mm、5mm及び7mm)による製造歩留まり、圧縮率、破断強度、引張強度、保存性等に明確な差は認められなかった。</p> <p>また、保存性については、原料の水分含量が12.2%の牛ふん堆肥ペレットでは保存後120日でもカビの発生が認められず、物理的な崩壊等によるロスも6.6%であったが、原料の水分含量が33.9%の豚ふん堆肥ペレットでは、保存開始後2週間でカビの発生が認められ、120日後のロスが約14.8%まで進んだ。そのため、ローラー・ディスクダイ方式の造粒機では、ペレット原料の低水分化が保存性を高めるために重要である可能性が示唆された。</p> |
| <p>バイオマスを活用した効率的エネルギー回収技術の研究</p> <p>平20～22</p> | <p>畜ふん尿を利用したメタン発酵のエネルギー回収率の向上を図るため、肉、魚、廃棄乳、パンくず、シュレッダーゴミ、廃糖蜜、上水汚泥、粗製グリセリン等の未利用バイオマス資源を用い、実験室内においてバイオガス発生量を評価したところ、粗製グリセリンが440ml/gVSと最も多く、ついで廃棄乳、パンくず、肉類、廃糖蜜の順に高かった。</p> <p>上記の結果を元に豚ふん尿に最もガス発生量の多かった組成グリセリンを1～75%まで代替してガス発生量を調べたところ、グリセリンの割合が高まると、発酵液のpHが低下し、ガス発生にばらつきが認められたため、10%以下が適切と考えられた。</p> <p>メタン発酵施設の実証試験については、バイオガスの発生量が、14,013m³/年、メタンガス平均濃度63.1%、発電量は11,627kwh/年であった。また、消化液の浄化処理水については、BOD6.7ppmと有機物は除去・分解されていたが、T-N300.5ppm、T-P21.8ppm、このうち水溶性Pは17.3ppmと高濃度に残存していた。</p> |

| 試験研究課題 | 成果の概要 |
|--|--|
| 簡易・低コストな環境負荷ガス低減技術と脱臭技術の実証試験 平20～22 | <p>畜産農場からのメタン、亜酸化窒素、二酸化炭素、アンモニア等環境負荷ガス等の簡易で低コストな抑制技術の開発を行うため、酪農排水から発生する環境負荷ガスを調査した。</p> <p>汚水の性状はBOD濃度が1,000ppm前後、BOD容積負荷は0.20～0.50kg/m³/dと段階的に変えて試験を行った結果、すべての測定対象ガスの揮散が確認された。亜酸化窒素の最大濃度は0.20kg/m³/dで4.4ppm、0.30kg/m³/dで62.8ppm、とBOD容積負荷の増加に伴い揮散量も増加したが、0.50kg/m³/dでは0.5ppmであり、これは浄化処理の悪化による硝酸・亜硝酸態窒素の低下とアンモニアの残存によりアンモニアの揮散が増加し亜酸化窒素が減少したと考えられた。</p> |
| 種豚改良 平元～ | <p>岡山県産豚および「おかやま黒豚」の生産を推進し、県内の養豚振興を図るため、優良な繁殖用種豚を県外から7頭導入し、種子豚及び精液を生産・供給した。また、種子豚の譲渡頭数は103頭、精液の譲渡本数は1829本であった。</p> |
| 種鶏改良 平元～ | <p>「おかやま地どり」の生産性向上のため、母系原種鶏であるロードアイランドレッド種、横斑プリマスロック種について育種改良を進めた。昨年度より体重、産卵率、近赤外線による腹腔内脂肪予測値を選抜形質とし、BLUPアニマルモデルによる育種価で選抜を行ったところ、20年度種鶏は改良前の17年度と比較して成長速度がロード雄21.0%、雌11.9%、横斑雄16.2%、雌19.1%向上した。</p> <p>また、ロードアイランドレッド種、横斑プリマスロック種及び烏骨鶏を維持・増殖し、県民へ養鶏の啓発を図り、さらに多様化する消費者ニーズに対応した地域特産品づくりの素材として、兼用種中雛526羽、おかやま地どり雛24,313羽を譲渡した。</p> |

4. 技術の浸透

(1) 各種研修会等の実施

当センターで研究開発した技術の指導については、次のとおり普及浸透に努めた。

| 月 | 日 | ～ | 月 | 日 | 名 称 | 場 所 | 参 集 対 象 者 | 人 数 名 | 内 容 |
|---|----|---|---|---|---------------------|----------|-----------------|-------|-----------------------------------|
| 4 | 11 | | | | 津山農業協同組合南部和牛改良部会 | 総合畜産センター | 県職員、和牛農家、関係機関 | 36 | 和牛改良について |
| 4 | 14 | | | | 肉用牛・中小家畜関係事業担当者会議 | 岡山市 | 県職員、関係団体、関係機関 | 48 | 肉用牛、養鶏・養豚関係事業、肉用牛・中小家畜試験研究課題等について |
| 4 | 17 | | | | 畜産担当者会議 | 岡山市 | 県職員、関係団体、関係機関 | 88 | 畜産関係事業の円滑な推進を図る為の担当者会議 |
| 4 | 17 | | | | 中国4県和牛改良会議 | 総合畜産センター | 中国4県和牛担当者 | 15 | 和牛改良の現状について |
| 4 | 21 | | | | 高梁農業普及指導センター | 総合畜産センター | 畜産農家、市担当者、県担当者 | 7 | 和牛の簡易放牧、遊休農地管理技術について |
| 4 | 23 | | | | 酪農関係事業推進会議 | 岡山市 | 県職員、関係団体、関係機関 | 38 | おか酪及び県の酪農振興方針、主要事業説明 |
| 4 | 25 | | | | 「岡山畜産便り」編集会議 | 岡山市 | 県職員、関係団体、関係機関 | 20 | 畜産便りの編集計画について |
| 4 | 25 | | | | いきいき家畜衛生ネット編集会議 | 岡山市 | 県畜産担当職員 | 15 | 家畜衛生ネットの編集及び計画について |
| 4 | 25 | | | | 勝英農業協同組合養豚部 | 勝田郡奈義町 | 畜産担当職員、養豚農家 | 13 | 養豚事業について |
| 4 | 28 | | | | 肉用牛入門講座 | 総合畜産センター | 畜産関係団体、県畜産担当者 | 18 | 就農支援及び妊娠牛の供給体制の確立検討 |
| 5 | 7 | | | | 肉用牛繁殖基礎強化総合対策事業 | 総合畜産センター | 畜産関係団体、県畜産担当者 | 16 | 繁殖経営を活用した増頭の推進について |
| 5 | 12 | | | | 養豚生産性向上緊急対策事業検討会 | 岡山市 | 畜産担当職員、養豚関係機関 | 14 | 豚改良、銘柄、生産性向上計画及び衛生について |
| 5 | 15 | | | | 勝英和牛改良部会 | 勝田郡奈義町 | 県職員、和牛農家、関係機関 | 25 | 和牛改良について |
| 5 | 15 | | | | 受精卵移植担当者会議 | 岡山市 | 県受精卵担当職員 | 30 | 受精卵移植損益シミュレータ検討及び移植・採卵手数料について |
| 5 | 19 | | | | 酪農経営支援推進会議 | 津山市 | 畜産担当職員、酪農関係機関 | 23 | 指導・支援活動の検討 |
| 5 | 20 | | | | 肉豚経営安定委員会 | 岡山市 | 畜産担当職員、養豚農家 | 45 | 肉豚価格差補填緊急対策について |
| 5 | 22 | | | | エコフィード事業推進会議 | 岡山市 | 畜産関係団体、県畜産担当者 | 18 | 20年度事業計画及び利用体制について |
| 5 | 23 | | | | 岡山大学農学部 | 総合畜産センター | 学生 | 30 | 牛改良及び受精卵移植について |
| 5 | 25 | | | | まきばの館ふれあい感謝デー | 総合畜産センター | 一般消費者 | 多数 | 畜産物加工品の紹介・畜産振興 |
| 5 | 27 | | | | 中国四国地域飼料自給率向上会議 | 岡山市 | 関係機関、各県畜産担当者 | 40 | 耕畜連携・食品残渣、生産性向上について |
| 5 | 29 | | | | 普及員高度化研修 | 総合畜産センター | 畜産普及員 | 15 | 平成20年度試験計画等について |
| 6 | 2 | | | | 肉用牛振興事業計画調整会議 | 倉敷市 | 関係機関、県畜産担当者、生産者 | 21 | 肉用牛繁殖雌牛の増頭・肉用牛振興取組計画・担い手確保等について |
| 6 | 3 | | | | 岡山県レイヤー協会総会・研修会 | 岡山市 | 養鶏関係者、県畜産担当者 | 54 | 養鶏情勢について |
| 6 | 4 | | | | 肉用牛後代検定牛産子調査 | 高梁市 | 畜産農家、畜産担当者 | 7 | 子牛の指導 |
| 6 | 4 | | | | 肉用牛振興事業計画調整会議 | 岡山市 | 関係機関、県畜産担当者、生産者 | 26 | 肉用牛繁殖雌牛の増頭・肉用牛振興取組計画・担い手確保等について |
| 6 | 5 | | | | 肉用牛振興事業計画調整会議 | 津山市 | 関係機関、県畜産担当者、生産者 | 38 | 肉用牛繁殖雌牛の増頭・肉用牛振興取組計画・担い手確保等について |
| 6 | 9 | | | | 新見市レストワンマイル事業 | 新見市 | 新見市関係職員、県畜産関係者 | 8 | 市内公営牧場の牛発情検知・分娩見守りシステムへの助言 |
| 6 | 11 | | | | まきばの館ふれあい感謝デー反省会 | 総合畜産センター | 県畜産関係機関 | 18 | 感謝デーの評価・反省・今後のあり方等 |
| 6 | 18 | | | | 岡山県学校農業クラブ連盟家畜審査競技会 | 総合畜産センター | 学生、指導者 | 55 | 肉用牛の家畜審査競技会審査 |

| 月 | 日 | ～ | 月 | 日 | 名 称 | 場 所 | 参 集 对 象 者 | 人 数 名 | 内 容 |
|---|----|---|---|----|-------------------------|----------|------------------|-------|---------------------------------|
| 6 | 18 | | | | 鶏病研究会県支部理事会 | 岡山市 | 鶏病研究会員 | 23 | 中国四国鶏病技術研修会事例発表演題について |
| 6 | 18 | | | | 中国四国酪農大 | 総合畜産センター | 学生、指導者 | 17 | 種雄牛の管理、精液採取、生ゴミの堆肥化技術 |
| 6 | 20 | | | | バイオ技術開発推進計画設定会議 | 横浜市 | 独法、県担当者 | 60 | バイオマス資源化技術開発について |
| 6 | 23 | ～ | 6 | 27 | 岡山理大専門学校インターンシップ | 総合畜産センター | 学生、指導者 | 10 | 受精卵処理、肉用牛・乳牛管理等について |
| 6 | 23 | ～ | 7 | 11 | 先進農家留学研修 | 総合畜産センター | 学生 | 1 | 養鶏の管理・育成について |
| 6 | 25 | | | | 全国和牛登録協会総会並びに主要会議 | 京都府 | 全国育種推進委員 | 75 | 優良和牛遺伝子保留等について |
| 6 | 25 | | | | 岡山県農業気象技術連絡会 | 赤磐市 | 気象庁関係者、県担当者 | 58 | 農業気象情報の調査計画 |
| 6 | 26 | | | | 畜産・酪農追加緊急対策事業推進会議 | 津山市 | 県関係畜産担当者、関係機関 | 15 | 稲発酵粗飼料の広域流通等の意見交換 |
| 7 | 1 | | | | 岡山県表割蹄師会削蹄鏡技会 | 総合畜産センター | 削蹄師、指導者 | 60 | 削蹄牛についての説明及び審査・牛の貸付 |
| 7 | 4 | | | | 岡山県ふ卵協会総会 | 岡山市 | 養鶏農家、県畜産担当者、関係機関 | 31 | 総合畜産センター試験研究課題について |
| 7 | 9 | | | | 6次産業化グループ協議会 | 岡山市 | 協議会員、行政関係者 | 多数 | 6次産業化カレッジ・加工食品の表示について |
| 7 | 9 | | | | 東備畜産研究会・研修会 | 和気町 | 県関係畜産担当者、研究会員 | 32 | 食品製造副産物の地用と自給飼料生産の推進について |
| 7 | 10 | | | | 畜産経営改善支援事業推進会議 | 岡山市 | 大学、関係機関、県担当者 | 17 | 蒜山地域におけるジャージー酪農の経営実態について |
| 7 | 10 | | | | 肉用牛入門講座 | 岡山市 | 県畜産職員、関係機関 | 16 | 受講生の受入研修農家及び講義内容について |
| 7 | 10 | ～ | 7 | 11 | 近畿中国四国養鶏担当者会議 | 和歌山県 | 各県養鶏担当者 | 28 | 国産鶏普及及び育種・新技術の連携について |
| 7 | 11 | | | | 岡山県養豚振興協会総会・研修会 | 岡山市 | 協議会員、県担当者 | 40 | 事業推進、養豚管理について |
| 7 | 11 | | | | 畜産経営改善支援モデル事業 | 真庭市 | 大学、関係機関、県担当者 | 17 | 蒜山地域におけるジャージー酪農経営の安定について |
| 7 | 11 | | | | 肉用牛生産性向上会議 | 岡山市 | 県畜産担当者、関係機関 | 15 | 肉用牛生産性向上計画作成及び目標についての助言 |
| 7 | 11 | ～ | 7 | 11 | 中国四国地域肉用牛研究員会議 | 奈良県 | 中四国内肉用牛担当職員 | 78 | 試験研究等の検討 |
| 7 | 16 | | | | 岡山県チキン振興会・おかやま地どり振興会 | 岡山市 | 養鶏農家、県畜産担当者、関係機関 | 35 | 養鶏経営のあり方 |
| 7 | 16 | ～ | 7 | 17 | 中国四国酪農大 | 真庭市 | 学生 | 30 | 肉加工研修・講義 |
| 7 | 17 | | | | 岡山県家畜人工授精師協会 | 岡山市 | 人工授精師、指導者 | 46 | 枝肉成績から見た岡山和牛の改良 |
| 7 | 19 | | | | 津山食品衛生協会リスクコミュニケーション研修会 | 総合畜産センター | 小中学生親子、指導者 | 47 | 乳製品の製造体験等の指導 |
| 7 | 24 | | | | 環境保全検討会議 | 岡山市 | 県担当者、関係機関 | 16 | 家畜排泄物の利用促進、分析調査 |
| 7 | 24 | | | | 岡山県和牛育種組合現地検討会 | 真庭市 | 県担当者、関係機関 | 25 | 新見・真庭・津山地域の系統雌牛群の調査、研究 |
| 7 | 24 | | | | いきいき家畜衛生ネット編集担当者会議 | 岡山市 | 県担当者 | 18 | 提出テーマの検討 |
| 7 | 27 | ～ | 7 | 28 | 農業大校夏期オープンキャンパス | 総合畜産センター | 県担当者、関係機関 | 3 | 畜産1日体験入学 |
| 7 | 28 | | | | エコフィード推進企画検討会議 | 総合畜産センター | 県担当者、関係機関 | 32 | もやし屑サイレージの給与実証、未利用資源のアンケート等について |
| 7 | 28 | | | | 和牛改良委員会 | 総合畜産センター | 県畜産職員、関係機関 | 28 | 肉用牛改良、種雄牛の造成・廃用・直接検定牛の措置等 |
| 7 | 29 | | | | 死亡牛緊急検査処理円滑化推進事業会議 | 総合畜産センター | 県畜産職員、関係機関 | 24 | 死亡牛緊急検査円滑化協議 |
| 7 | 31 | | | | 和牛子牛購買者意見交換会 | 真庭市 | 県畜産職員、関係機関 | 56 | 和牛子牛の生産拡大、枝肉成績から見た岡山和牛 |

| 月 | 日 | ～ | 月 | 日 | 名 称 | 場 所 | 参 集 对 象 者 | 人 数 名 | 内 容 |
|---|----|---|---|----|----------------------------|----------|-------------------------------|-------|------------------------------|
| 7 | 31 | | | | 岡山県畜産物加工研究会 | 総合畜産センター | 県畜産職員、加工研究会員 | 25 | 総会及び意見交換会 |
| 8 | 1 | | | | 岡山県畜産協会 | 真庭市 | 畜産農家、関係機関 | 多数 | 飼料価格高騰による生産者の相談 |
| 8 | 5 | | | | 県畜産共進会現地打ち合わせ会議 | 真庭市 | 県畜産職員、関係機関 | 30 | 共進会・畜産物フェアの概要、業務割り当て |
| 8 | 5 | | | | 岡山県卵質改善共励会・ブロイラー共励会打合せ | 総合畜産センター | 共励会員、県養鶏担当者 | 23 | 審査の方法・審査基準の確認等 |
| 8 | 5 | | | | 岡山県良質堆きゅう肥共励会・研修会 | 岡山市 | 関係機関、県畜産担当者、生産者 | 15 | 共励会・研修会の事前打ち合わせ |
| 8 | 5 | ～ | 8 | 6 | 畜産関係新規採用職員研修会 | 総合畜産センター | 県畜産担当者、新規畜産関係職員 | 25 | 畜産関係職場での業務内容・試験研究の説明・畜産物加工実習 |
| 8 | 11 | | | | 肉豚経営安定委員会 | 岡山市 | 県畜産職員、関係機関 | 24 | 経営緊急安定化特別対策事業価格補填等について |
| 8 | 20 | | | | 受精卵移植事業研修会 | 総合畜産センター | 県畜産職員、関係機関 | 22 | 平成20年度移植事業の進捗状況等の研修会 |
| 8 | 20 | | | | 津山農業協同組合苫田和牛生産組合 | 津山市 | 和牛生産組合員、指導者 | 25 | 和牛改良について |
| 8 | 23 | | | | おかやま環境塾 | 総合畜産センター | 受講生、関係者 | 42 | バイオマス発電施設の説明 |
| 8 | 26 | | | | 岡山和牛子牛資質向上対策協議会 | 真庭市 | 県畜産関係職員、関係機関、農協 | 36 | 岡山和牛子牛の資質向上と高位平準化を図る対策 |
| 8 | 28 | | | | 岡山県畜産協会事業推進会 | 岡山市 | 県畜産職員、関係機関 | 35 | 家畜伝染病、死亡牛門番推進事業について |
| 8 | 30 | | | | 新見市畜産共進会 | 新見市 | 畜産農家、県及び関係機関担当者 | 73 | 家畜審査 |
| 8 | 31 | | | | 勝美地域畜産共進会 | 苫田郡奈義町 | 畜産農家、県及び関係機関担当者 | 85 | 家畜審査 |
| 9 | 1 | | | | 受精卵移植技術向上研修会 | 岡山市 | 中四国県受精卵関係担当者 | 25 | 牛の繁殖と受精卵移植の技術上での意見交換会 |
| 9 | 1 | ～ | 9 | 2 | 近畿ブロック酪農・飼料作物研究会議及び乳牛担当者会議 | 兵庫県 | 各県酪農関係研究職員 | 47 | 酪農・飼料作物・飼料確保等試験研究の取り組み |
| 9 | 2 | | | | 岡山県立研究機関協議会 | 岡山市 | 県内県関係研究員 | 20 | 研究機関のあり方・新規・重点研究課題 |
| 9 | 2 | ～ | 9 | 5 | 岡山県卵質改善共励会 | 県下一円 | 養鶏農家、県畜産担当者 | 多数 | 原料卵・割卵検査 |
| 9 | 3 | | | | 岡山和牛子牛資質向上対策打合せ | 岡山市 | 県畜産担当者、関係機関 | 15 | 協議会の運営方針と役割分担の話し合い |
| 9 | 4 | | | | 畜産経営改善支援検討委員会 | 真庭市 | 県畜産担当者、関係機関 | 26 | ジャージー酪農経営の課題・指導の内容 |
| 9 | 5 | | | | 岡山県畜産物フェア打ち合わせ会 | 真庭市 | 県畜産担当者、関係機関 | 36 | 畜産物フェアの打ち合わせ |
| 9 | 6 | | | | 津山地区畜産共進会 | 真庭市 | 県畜産担当者、関係機関、畜産農家 | 多数 | 家畜の審査 |
| 9 | 9 | | | | 岡山県酪農緊急強化推進協議会 | 津山市 | 構成委員 | 25 | 事業計画の審査 |
| 9 | 9 | | | | 岡山和牛子牛資質向上対策会議総会 | 真庭市 | 県畜産担当者、関係機関 | 52 | 協議会規約及び事業計画等の承認 |
| 9 | 10 | | | | 岡山県学校農業クラブ連盟家畜審査競技会 | 総合畜産センター | 学生、指導者 | 55 | 乳牛の家畜審査競技会審査 |
| 9 | 18 | | | | 中国四国地区牛胴蹄競技会大会 | 総合畜産センター | 指導者、胴蹄師 | 多数 | 胴蹄競技会審査 |
| 9 | 18 | | | | 真庭地域畜産共進会 | 真庭市 | 県畜産担当者、関係機関、畜産農家 | 多数 | 家畜の審査 |
| 9 | 18 | ～ | 9 | 19 | 汎用型飼料収穫機現地検討会 | 福島県 | 農水省・都道府県・試験研究・普及・J.A・関連企業・生産者 | 多数 | 中山間地におけるコントラクタへの導入の可能性 |
| 9 | 19 | | | | 備北地域畜産共進会 | 真庭市 | 県畜産担当者、関係機関、畜産農家 | 多数 | 家畜の審査 |
| 9 | 20 | | | | おからく津山支所乳牛共進会 | 真庭市 | 県畜産担当者、畜産農家 | 60 | 家畜の審査 |
| 9 | 20 | | | | 食肉と健康セミナー | 和気町 | 県畜産担当者、関係機関、消費者 | 38 | 食肉と健康についての講演 |

| 月 | 日 | ～ | 月 | 日 | 名 称 | 場 所 | 参 集 对 象 者 | 人 数 名 | 内 容 |
|----|----|---|----|----|-----------------------------|----------|----------------------------------|-------|-----------------------------|
| 9 | 22 | | | | 畜産経営技術高度化促進事業 | 岡山市 | 県畜産担当者、関係機関 | 14 | 地域活動計画の作成、岡山和牛子牛の推奨基準 |
| 9 | 22 | | | | 岡山調理専門学校下田学園 | 総合畜産センター | 学生 | 25 | ソーセージ作りの指導 |
| 9 | 24 | | | | 地球温暖化セミナー | 岡山市 | 独法、関係機関 | 多数 | 中国四国地域関係者の研究や実践・意見交換 |
| 9 | 29 | | | | 近畿中国四国問題別研究会 | 広島市 | 農水省・都道府県・試験研究・普及・J A関係者・関連企業・生産者 | 多数 | 放牧地周辺環境管理、栄養管理等の関係者意見交換会 |
| 10 | 3 | | | | 畜産環境保全検討会 | 岡山市 | 県環境保全担当者 | 10 | 家畜排泄物の利用促進及び昨年度助言指導した結果について |
| 10 | 8 | | | | 岡山和牛子牛資質向上対策打合せ | 総合畜産センター | 県畜産担当者、関係機関 | 25 | 取り組みについての協議 |
| 10 | 8 | | | | いきいき家畜衛生ネット担当者会議 | 岡山市 | 県畜産担当者 | 10 | 編集・計画について |
| 10 | 11 | | | | 日本獣医三学会（中国） | 米子市 | 獣医師、中国四国畜産担当者 | 多数 | 一年一産一採卵技術の現場での応用 |
| 10 | 12 | | | | 岡山県畜産共進会 | 真庭市 | 県畜産担当者、関係機関、畜産農家 | 多数 | 家畜の審査、畜産物の紹介、展示 |
| 10 | 15 | | | | 広島県立総合技術研究所成果発表会 | 広島市 | 一般市民 | 多数 | ポスター展示、説明 |
| 10 | 16 | ～ | 10 | 17 | 中国四国酪農大学校 | 真庭市 | 学生 | 18 | 乳・肉製品製造研修指導 |
| 10 | 17 | | | | 岡山県卵質改善共励会・最終審査 | 岡山市 | 養鶏農家、県畜産担当者 | 多数 | 書類審査 |
| 10 | 20 | | | | 岡山県地上地開発公社 | 岡山市 | 機種選定委員、公社指導員 | 12 | 搾乳ロボットの機種選定 |
| 10 | 20 | | | | 平成20年度問題別研究会 | 茨城県 | 農水省、(独)県研究、大学、民間企業 | 80 | 家畜の快適性、完全性についての今後の研究方向 |
| 10 | 22 | | | | 高品質肉用鶏部会 | 兵庫県 | 肉用鶏分科会員、大学 | 34 | 鶏肉質評価技術の向上 |
| 10 | 23 | | | | ミルク&ナチュラルチーズ2008 in おかやま打合せ | 岡山市 | 出展者、県畜産担当者 | 28 | 衛生面等についての出展者への注意事項の説明 |
| 10 | 23 | | | | 卵質改良部会・高品質肉用鶏部会 | 相生市 | 独法・各県鶏研究担当者 | 70 | 系統利用及び意見交換・個別協議 |
| 10 | 27 | | | | バイオマス・マテリアル製造技術の開発 | つくば市 | 独法、関係機関、課題担当者 | 多数 | 課題の検討 |
| 10 | 30 | | | | 経営革新ネットワーク支援事業研究グループ | 岡山市 | 関係企業 | 45 | 食料品等の未利用資源の活用についてのアドバイザー |
| 10 | 30 | | | | 岡山県養鶏研究会総会・講演会 | 岡山市 | 養鶏研究会委員、県畜産担当者 | 76 | 事業計画、事業報告、助言 |
| 10 | 31 | | | | おかやまバイオアクティブ研究会 | 岡山市 | 研究会委員、県畜産担当者 | 55 | シンポジウム |
| 10 | 31 | ～ | 11 | 1 | 全国ブランド牛交流会 | 新見市 | 各県ブランド牛保有県 | 多数 | ブランド化の推進に伴う研修と交流 |
| 11 | 1 | | | | 2008' 千屋牛&うまいものフェア | 新見市 | 一般消費者 | 多数 | 牛の生態や肉用牛生産の現状の紹介 |
| 11 | 3 | | | | 岡山県枝肉共進会審査委員会議 | 岡山市 | 関係機関、審査員 | 28 | 審査の確認 |
| 11 | 3 | ～ | 11 | 5 | 豚肉枝肉共励会 | 岡山市 | 養豚農家、関係機関 | 多数 | 豚枝肉審査 |
| 11 | 5 | | | | 全日本ホルスタイン共進会岡山県出品対策協議会 | 岡山市 | 協議会員 | 42 | 乳牛改良の実を挙げるための審査協議 |
| 11 | 6 | | | | 和牛改良委員会 | 総合畜産センター | 和牛改良委員 | 18 | 種雄牛の選定及び廃用・直接検定終了牛の措置 |
| 11 | 7 | | | | 乳用牛群改良推進事業指導者研修会 | 総合畜産センター | 県畜産担当者、関係機関 | 25 | ジャージー牛の近交回避・泌乳量及び牛検成績 |
| 11 | 12 | | | | 河川敷野草の飼料利用検討会 | 岡山市 | 県畜産担当者、関係機関 | 7 | 野草の飼料利用試験 |
| 11 | 12 | | | | エコフィード推進企画検討会議 | 岡山市 | 県関係者、関係機関 | 40 | もやし屑のサイレージ給与実証 |
| 11 | 13 | ～ | 11 | 14 | 肉用鶏特別分科会 | 北海道 | 独法・府県関係担当者、大学 | 36 | 特別飼育に関する試験結果 |

| 月 | 日 | ～ | 月 | 日 | 名 称 | 場 所 | 参 集 对 象 者 | 人 数 名 | 内 容 |
|----|----|---|----|----|--------------------------|----------|---------------------|-------|-----------------------------|
| 11 | 15 | ～ | 11 | 16 | ミルク&ナチュラルチーズ2008 in おかやま | 岡山市 | 一般消費者 | 多数 | 乳製品の普及啓発、乳製品の消費拡大 |
| 11 | 17 | | | | 家畜人工授精優良技術発表会・技術講習会 | 岡山市 | 関係機関、県畜産担当者 | 78 | 技術指導、審査 |
| 11 | 20 | | | | 岡山県学校農業クラブ連盟岡山県大会 | 瀬戸市 | 学校畜産職員、県畜産担当職員 | 50 | 審査 |
| 11 | 18 | | | | NICT事業中間報告会 | 島根県 | 独法・府県関係担当者、ワコム | 20 | 発情検知システムによる繁殖農家と畜産技術者との情報交換 |
| 11 | 19 | | | | 中国四国地区鶏病技術研修会 | 山口市 | 中四国養鶏担当者 | 29 | 鶏病に関する話題提供 |
| 11 | 19 | ～ | 11 | 20 | 中国四国酪農大学校 | 真庭市 | 学生 | 17 | 乳牛の糞尿処理に関する基礎概念 |
| 11 | 20 | | | | 岡山県学校農業クラブ連盟岡山県大会 | 瀬戸市 | 学校畜産職員、県畜産担当職員 | 50 | 家畜審査の講評 |
| 11 | 20 | | | | 未利用資源活用開発グループ | 岡山市 | 関係機関、グループ | 15 | 飼料の未利用資源調査・配合割合等の検討 |
| 11 | 20 | | | | エコフィード中国四国セミナー | 松山市 | 食品関連・畜産関連団体、畜産農家 | 多数 | 食品残渣飼料利用の検討 |
| 11 | 20 | ～ | 11 | 21 | 分析研修 | 総合畜産センター | 県研究員 | 1 | 分析装置の使用・分析実習 |
| 11 | 25 | ～ | 12 | 26 | 家畜人工授精講習会 | 真庭市 | 学生、一般者 | 28 | 家畜人工授精講義・体内受精処理、実習・講義 |
| 11 | 26 | | | | 畜産環境保全特別指導事業打合せ | 津山市 | 県・市畜産担当委員 | 11 | 分析調査の方法 |
| 11 | 27 | | | | 岡山県養豚マニュアル作成委員会 | 総合畜産センター | 関係団体、県関係担当者 | 6 | 養豚マニュアルの課題と作成について |
| 11 | 28 | | | | 美作地域オーエスキー病防疫協議会 | 津山市 | 家畜保健所、家畜診療所、獣医師会 | 32 | 本病のモニタリング検査・防疫措置の指導、対応 |
| 11 | 28 | | | | 普及指導員畜産担当者会議 | 赤磐市 | 県畜産担当者、関係機関、グループ | 45 | 飼料イネ推進に関する情報提供 |
| 11 | 28 | | | | 耕種連携推進研修会 | 岡山市 | 関係機関、団体、県担当機関 | 88 | 耕種連携による飼料生産取り組んでいる優良事例の発掘 |
| 12 | 3 | ～ | 12 | 4 | 岡山県枝肉共進会 | 岡山市 | 畜産農家、関係機関 | 多数 | 枝肉審査 |
| 12 | 3 | ～ | 12 | 4 | 問題別研究会 | つくば市 | 農水省、試験研究機関、大学他 | 多数 | 牛における受胎率低下の要因 |
| 12 | 4 | ～ | 12 | 5 | 問題別研究会（農業気象） | 福山市 | 近中四試験研究機関、大学、独法 | 37 | 温暖化の影響と対策シンポジウム |
| 12 | 5 | | | | 酪農飼料自給率向上協議会 | 津山市 | 協議会構成委員 | 46 | 自給率向上のアドバイス |
| 12 | 8 | | | | 畜産環境保全特別指導事業現地調査 | 美作市 | 指導チーム委員 | 10 | 環境調査、水質調査、施設稼働状況 |
| 12 | 8 | | | | 和牛振興対策事業打ち合わせ会議 | 岡山市 | 県畜産担当者、関係機関、JA | 36 | 開催内容等の事前協議 |
| 12 | 8 | ～ | 12 | 9 | エコフィード全国シンポジウム | つくば市 | 農水省、試験研究機関、大学他 | 63 | 飼料基盤の構造的な改革の意見交換 |
| 12 | 11 | | | | 汎用型飼料収穫機中央検討会 | さいたま市 | 農水省、試験研究機関、大学、メーカー他 | 80 | 開発促進評価試験内容等の検討 |
| 12 | 11 | | | | 食肉と健康セミナー | 総社市 | 総社婦人会 | 60 | 食品と健康についての講演 |
| 12 | 15 | | | | 畜産環境保全特別指導事業現地調査 | 笠岡市 | 指導チーム委員 | 13 | 環境調査、水質調査、施設稼働状況 |
| 12 | 16 | | | | 中国四国地域アグリビジネス創出フェア | 高松市 | 一般市民 | 多数 | 試験研究の紹介 |
| 12 | 17 | | | | 岡山和牛子牛資質向上対策協議会阿新地域部会 | 新見市 | 畜産農家、関係機関 | 35 | 和牛改良について |
| 12 | 17 | | | | 岡山県良質堆きゅう肥共励会 | 総合畜産センター | 農家、県市町村関係者 | 30 | 堆きゅう肥の品質、成分の評価及び審査 |
| 12 | 18 | | | | エコフィード中国セミナー | 岡山市 | 食品関連団体、畜産農家 | 70 | 食品残渣の飼料化とその現状、パネラー |
| 12 | 19 | | | | 岡山県立久世高等学校 | 真庭市 | 生物生産科生徒 | 25 | 特色、種雄牛、センターの特色 |

| 月 | 日 | ～月 | 日 | 名 称 | 場 所 | 参 集 対 象 者 | 人 数 名 | 内 容 |
|----|----|----|------|------------------------|----------|-------------------|-------|---------------------------------------|
| 12 | 22 | | | 農場環境対策会 | 和気町 | 町・県畜産担当者 | 8 | 今後の牧場のあり方の協議 |
| 1 | 5 | ～ | 1 30 | 家畜人工授精・体内受精卵移植講習会 | 真庭市 | 学生、一般者 | 28 | 家畜人工授精及び家畜体内受精卵移植に関する講習会 |
| 1 | 8 | | | 岡山県草地コンクール審査員会議 | 岡山市 | 協会、県関係職員 | 7 | 優秀事例の選考 |
| 1 | 13 | | | 愛知県豊川市生活文教委員 | 総合畜産センター | 市文教委員 | 11 | バイオマス施設の概要及び処理等 |
| 1 | 15 | | | 岡山県畜産関係業績発表会 | 岡山市 | 関係機関 | 100 | 研究成果の発表 |
| 1 | 16 | | | 畜産環境保全特別指導チーム会議 | 美作市 | 県畜産担当者、関係機関 | 40 | 養豚農家のふん尿処理施設の改善対策 |
| 1 | 20 | | | 受精卵移植担当者会議 | 岡山市 | 県畜産担当者、関係機関 | 22 | 受精卵移植事業の進捗状況と移植の手数料等について |
| 1 | 20 | | | いきいき家畜衛生ネット編集会議 | 岡山市 | 県畜産担当者、関係機関 | 28 | 85号・86号の編集作成・計画 |
| 1 | 20 | | | こっちゃんフェア | 岡山市 | 県畜産担当者、関係機関、農協 | 15 | フェア打ち合わせ |
| 1 | 22 | | | 和牛人工哺育技術研修会 | 小田郡 | 畜産農家、関係団体 | 49 | 岡山和牛子牛に適した人工哺乳・育成体系について |
| 1 | 23 | | | 自給飼料担当者会議 | 総合畜産センター | 県畜産担当者、関係機関 | 35 | 自給飼料の生産状況 |
| 1 | 23 | | | 肉用牛入門講座 | 真庭市 | 講座受講生、畜産農家 | 32 | 肉用牛に関する基礎講座・意見交換会 |
| 1 | 23 | | | サイレージ共励会 | 津山市 | 畜産農家、関係機関 | 多数 | サイレージ審査・講評 |
| 1 | 26 | | | 備中県民局管内肉用牛振興地域会議 | 高梁市 | 県畜産担当者、関係機関、農家 | 53 | 肉用牛繁殖雌牛増頭対策・肉質向上等 |
| 1 | 27 | | | 岡山県コントラクター協議会研修会 | 岡山市 | 行政関係、関係機関、コントラ関係者 | 48 | 汎用型飼料収穫機による実証試験成績 |
| 1 | 28 | | | 岡山県良質堆きゅう肥共励会表彰式・研修会 | 岡山市 | 農家、県市町村関係者 | 46 | 県堆きゅう肥共励会出品堆肥の10年の変遷・利用性の高い堆肥の供給体制の確立 |
| 1 | 28 | | | 岡山和牛子牛外部評価調査会議 | 真庭市 | 県畜産担当者、関係機関、農家 | 37 | 和牛子牛の資質向上、繁殖牛農家、肥育牛農家との意見交換会 |
| 1 | 30 | | | 美作県民局管内肉用牛振興地域会議 | 津山市 | 県畜産担当者、関係機関、農家 | 61 | 肉用牛繁殖雌牛増頭対策・肉質向上等 |
| 1 | 30 | | | おかやま地どり雛出荷調整会議 | 岡山市 | 県畜産担当者、振興会員 | 16 | 地どりの雛供給、生産調整 |
| 1 | 30 | | | 岡山県立研究機関協議会 | 岡山市 | 一般研究者 | 多数 | 試験研究課題について |
| 2 | 2 | | | 備前県民局管内肉用牛振興地域会議 | 岡山市 | 県畜産担当者、関係機関、農家 | 46 | 肉用牛繁殖雌牛増頭対策・肉質向上等 |
| 2 | 2 | | | 水産業振興型技術開発委託事業 | 横浜市 | 評価委員 | 70 | 水産バイオマス資源化技術開発の成果検討 |
| 2 | 2 | ～ | 2 3 | 牧場管理者研修会 | 名古屋市 | 公共牧場管理運営者、行政機関 | 40 | 公共牧場の有効活用等の討論会 |
| 2 | 3 | | | 乳用牛群総合改良推進事業 | 総合畜産センター | 県畜産担当者、関係機関 | 23 | 現場での指導・支援等の指導者研修 |
| 2 | 3 | | | おかやま酪農協 | 津山市 | 酪農組合員 | 36 | 哺育育成管理技術について |
| 2 | 13 | | | 近畿中国四国農業試験研究推進会議評価企画会議 | 福山市 | 研究員 | 32 | 課題候補の効率的な検討について |
| 2 | 13 | | | 岡山県プロイラー共励会 | 岡山市 | 県畜産担当者、県プロ、業者 | 12 | 出品材料の最終審査及び来年度の審査基準について |
| 2 | 17 | | | 受精卵移植マニュアル（テキスト）改訂委員会 | 東京都 | 専門委員（大学教授、研究員等） | 11 | 先進事例調査状況等のとりまとめ |
| 2 | 17 | | | 岡山県6次化グループ協議会 | 岡山市 | 協議会委員、行政関係者 | 多数 | 6次化商品評価会・意見・感想・今後の商品開発のアドバイス |
| 2 | 25 | | | 全国第2回DNA育種推進会議 | 東京都 | 農水省、各県、独法関係者 | 45 | 事業成果のとりまとめ |
| 2 | 25 | ～ | 2 27 | 雌雄産み分け技術共同試験技術検討会 | つくば市 | 独法、共同研究実施道県担当者 | 62 | 核移植技術全国検討会、ETシンポジウム、情報交換会 |
| 2 | 27 | | | 養豚経営技術向上研修会 | 総合畜産センター | 養豚振興会員、県畜産担当者 | 26 | 豚妊娠鑑定器の操作・養豚汚水処理について、 |

| 月 | 日 | ～ | 月 | 日 | 名 称 | 場 所 | 参 集 对 象 者 | 人 数 名 | 内 容 |
|---|----|---|----|---|---------------------|----------|-------------------|-------|--------------------------------|
| 3 | 2 | ～ | 3 | 3 | 飼料イネの研究と普及に関する情報交換会 | さいたま市 | 農水省、独法、県関係機関、大学 | 多数 | 飼料イネの生産・利用研究の展開等の情報交換・討議 |
| 3 | 3 | | | | 雌雄選別精液等新技術の活用研修会 | 津山市 | 酪農家、指導者、県畜産担当者 | 28 | 雌雄判別精液の利地上・推進上の留意点及び問題点 |
| 3 | 5 | | | | 全国食品関係試験研究場所長会 | つくば市 | 独法、関係各県担当者 | 80 | 優良研究・指導者業績表彰 |
| 3 | 6 | | | | 8団体共催養鶏講演会 | 岡山市 | 養鶏農家、関係機関、研究会委員 | 78 | 安全で美味しい鶏卵・鶏肉生産、卵質改善、プロイラー共協会表彰 |
| 3 | 6 | ～ | 3 | 7 | 飼料イネの研究と普及に関する交換会、 | さいたま市 | 農水省、独法、都道府県、大学、団体 | 78 | 情報交換 |
| 3 | 7 | ～ | 3 | 8 | 岡山県養鶏協会 | 岡山市 | 食鶏関連協会、農協、県、一般 | 多数 | 2008おかやまエッグ&チキン、商品の安全性の紹介等 |
| 3 | 10 | | | | 中国四国地域自給飼料率向上会議 | 岡山市 | 農水省、独法、都道府県関係者 | 50 | 自給飼料増産、食品残渣の飼料化、家畜生産性の向上 |
| 3 | 11 | | | | 岡山和牛改良対策事業専門委員会 | 新見市 | 和牛牧場職員、農協、指導者 | 12 | 交配指導、保留牛、基礎牛等の指導 |
| 3 | 11 | ～ | 12 | | 加工研究会 | 畜産センター | 研究会開催 | 10 | 特産加工品開発指導 |
| 3 | 14 | | | | 高梁地域耕作放棄地対策協議会 | 高梁市 | 農家、区市町村関係者指導者、一般 | 多数 | 農地・生活圏の活生化、鳥獣害対策等遊休農地活用研修 |
| 3 | 16 | | | | 自給飼料活用型TMRセンター | 東京都 | 農水省、独法、都道府県、大学、団体 | 多数 | 自給飼料活用型TMRセンターの展開を図る情報交換 |
| 3 | 16 | | | | 和牛改良委員会 | 岡山市 | 改良委員会員 | 25 | 後代検定牛の評価成績、後代・検定牛の実施状況 |
| 3 | 17 | | | | 中央畜産技術研修会 | 岡山市 | 県畜産関係職員 | 53 | 畜産環境保全についての復命 |
| 3 | 18 | | | | 勝英地域広域農業技術者連絡協議会 | 総合畜産センター | 協議会畜産部会員 | 10 | 肉用牛の稲発酵粗飼料給与試験研究の状況について |
| 3 | 18 | | | | いきいき家畜衛生ネット編集会議 | 岡山市 | 県関係職員 | 28 | 第86号、第87号の編集・計画について |
| 3 | 19 | | | | おからくスプリングショウ | 真庭市 | 酪農家、県畜産担当者、指導者 | 80 | E T技術の今後と問題点 |
| 3 | 23 | | | | 死亡牛緊急検査処理円滑事業推進会議 | 総合畜産センター | 担当職員 | 30 | BSEの感染源、管理センターの運営等について |

(2) 研修生・実習生の受け入れ状況

畜産の専門的技術者の養成と畜産経営者等に対する新しい技術指導を目的に畜産技術研修制度を設け、これに基づく研修を次のとおり実施した。

| 研修者名等 | 研修名又は研修目的 | 研修期間 | 研修内容 |
|--------|-----------|------------------|----------------------|
| 秋山 典生 | 畜産技術研修 | H20. 6. 23～6. 27 | 家畜(牛、豚、鶏)に関する先端技術の習得 |
| 榎本 千絵子 | 〃 | 〃 | |
| 高木 優 | 〃 | 〃 | |
| 竹久 智保 | 〃 | 〃 | |
| 野村 芽生 | 〃 | 〃 | |
| 福田 絵里子 | 〃 | 〃 | |
| 藤本 昌宏 | 〃 | 〃 | |
| 松尾 さおり | 〃 | 〃 | |
| 森 翔子 | 〃 | 〃 | |
| 脇浦 龍也 | 〃 | 〃 | |

5 視察者の来所状況

当センターの視察見学者数は、生産者、畜産関係者、大学・高校・小学生など、計1,846人であった。

表1 月別の視察見学者数

単位：人

| 年 月 | H20 | | | | | | | | | H21 | | | 合計 |
|--------|-----|-----|-----|----|----|----|-----|----|----|-----|----|----|-------|
| | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 | |
| 県内 | 17 | 654 | 100 | 50 | 80 | 60 | 850 | 0 | 0 | 0 | 10 | 10 | 1,831 |
| 県外 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 15 | 0 | 0 | 15 |
| 計 | 17 | 654 | 100 | 50 | 80 | 60 | 850 | 0 | 0 | 15 | 10 | 10 | 1,846 |

参考：「まきばの館」入館者数 146,084人。

表2 視察見学者内訳

| 区分 | 内訳 | 人数 |
|---------|---------------|-----|
| 専門的視察研修 | 生産者・畜産関係団体等 | 39 |
| | 教育機関(大学、高校生等) | 50 |
| | その他 | 305 |
| 一般見学 | 小学校 | 970 |
| | 幼稚園・保育所 | 482 |

6 業務相談件数

単位：件

| 年 月 | H20 | | | | | | | | | H21 | | | 合計 |
|--------|-----|---|---|---|---|---|----|----|----|-----|---|---|----|
| | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 | |
| 計 | 5 | 3 | 6 | 4 | 9 | 6 | 10 | 9 | 6 | 3 | 3 | 2 | 66 |

Ⅱ 成果の発表と広報活動

1 研究発表

| 課 題 名 | 発 表 者 | 発表誌または会名 | 年 月 |
|---|---------------|--------------------------|-------|
| DNAマーカーを指標とした牛の育種手法の開発に関する研究 -岡山県基幹種雄牛「花茂勝2」におけるQLT領域の推定(第1報) | 中藤 由紀 他4名 | 岡山県総合畜産センター 研究報告 第18号 | H20.3 |
| パルス燃焼式乾燥装置で製造したプロバイオティクス乳酸菌製剤の子牛への効果 | 田中 健嗣 他2名 | 〃 | 〃 |
| 大麦ワラの飼料利用技術の検討 | 長尾 伸一郎 他2名 | 〃 | 〃 |
| ヒト閉経期性腺刺激ホルモンを用いたウシ過剰排卵処理の簡易化(第1報) | 中原 仁 他2名 | 〃 | 〃 |
| ウシバイオプシー胚のガラス化保存法改善 | 小田 頼政 他2名 | 〃 | 〃 |
| 周年放牧の確立と低コスト生産 -備蓄草地を活用した冬期放牧の検討- | 木曾田 繁 他3名 | 〃 | 〃 |
| 岡山和牛子牛に適した人工哺乳体系の確立 | 笹尾 浩史 他4名 | 〃 | 〃 |
| 近赤外分光法による鶏腹腔内脂肪量の予測技術の検討 | 荒金 知宏 他6名 | 〃 | 〃 |
| 健康で安全な鶏肉の生産技術の開発 | 金谷 健史 他4名 | 〃 | 〃 |
| 健康で安全な豚肉の生産技術の開発 | 金谷 健史 他4名 | 〃 | 〃 |
| 好熱性微生物の添加による堆肥化促進効果の検討 | 小林 宙 他3名 | 〃 | 〃 |
| 水生植物炭化物の添加による堆肥化時臭気低減効果の検討 | 小林 宙 他4名 | 〃 | 〃 |
| 亜酸化窒素・メタンの発生抑制方法の検討(Ⅲ) -豚ふんの堆肥化処理開始時期が環境負荷ガスの発生に及ぼす影響- | 白石 誠 他3名 | 〃 | 〃 |
| 和牛産肉能力検定(直接法:平成19年度) | 馬場 誠 | 〃 | 〃 |
| 和牛産肉能力検定(現場後代検定法 :平成19年度) | 岡本 雄太 他2名 | 〃 | 〃 |
| 肉用牛の改良促進調査研究(平成19年度) -アニマルモデルによる育種価の推定- | 馬場 誠 他2名 | 〃 | 〃 |
| 「おかやま黒豚」種子豚の産肉能力成績 (平成19年度) | 金谷 健史 他3名 | 〃 | 〃 |
| パークシャー産肉能力調査2 | 金谷 健史 他4名 | 〃 | 〃 |

| 課 題 名 | 発 表 者 | 発表誌または会名 | 年 月 |
|---------------------------------------|-------|---------------|-----------|
| おかやま地どり母系の選抜手法の違いによる改良効果 | 金谷 健史 | 岡山県畜産関係業績発表会 | H 2 1 . 1 |
| Cryotopを用いた超急速ガラス化保存した牛性判別胚の庭先移植法の検討 | 小田原春菜 | " | " |
| センサーによる牛発情行動のモニタリング | 瀬尾 聡一 | " | " |
| モヤシ粕の飼料化技術の検討 | 有安 則夫 | " | " |
| 食品残さの飼料化を進めるためには —アンケートから見える現状と課題— | 栗木 隆吉 | " | " |
| 好熱性微生物の添加による豚ふん堆肥化試験 | 梯 洋介 | " | " |
| ヒト閉経期性腺刺激ホルモンを用いた簡易過剰排卵処理法の検討 | 中原 仁 | 岡山県獣医 3 学会 | H 2 0 . 8 |
| ヒト閉経期性腺刺激ホルモンを用いた簡易過剰排卵処理法の検討 | 小田原春菜 | 日本獣医 3 学会 | H20. 10 |
| 「1年1産1採卵」技術の現場での応用 | 有安 則夫 | " | " |
| 酪農排水処理施設から発生する環境負荷ガス調査 | 白石 誠 | 日本畜産学会第110回大会 | H 2 1 . 3 |
| 発酵豆乳給与が卵用鶏雄雛の発育および整腸・免疫賦活作用に及ぼす効果 | 金谷 健史 | " | " |

2 技術解説

| 題 名 | 執筆者 | 資料または発表誌名 | 年 月 |
|--|----------------|-------------|--------------------|
| DNA情報を利用した種雄牛造成について | 中藤 由紀 | 岡山畜産便り | H20. 4 |
| 子豚の発育に「乳酸菌＋有機酸」が有効 ～飼料添加で抗菌物質代替効果を確認～ | | いきいき家畜衛生ネット | N o . 82 |
| 平成20年度から始まる試験研究課題の紹介 | 経営開発部 | 岡山畜産便り | H20. 5・6 |
| モヤシ屑の飼料特性について | 長尾伸一郎 | 岡山畜産便り | H20. 7 |
| 市場価値の高い子牛作りをがんばろう | 瀬尾 聡一 | 岡山畜産便り | H20. 8 |
| 牛群改良に優良乳用牛の受精卵を活用しよう！ ～新たな供卵牛を導入しました～ | | いきいき家畜衛生ネット | N o . 83 |
| 食品製造副産物の飼料化試験について | | " | " |
| ピンチをチャンスに！良質堆肥の利用拡大を目指して！ | 水木 剛 | 岡山畜産便り | H20. 9 |
| 利用できる食品副産物はこんなにある！ 県内の食品廃棄物のアンケート調査から | 山田 徹夫 | 岡山畜産便り | H20. 10 |
| 過剰排卵処理の簡易化に向けた取り組み —ヒト由来性腺刺激ホルモン（HMG）の利用について— | 中原 仁 | 岡山畜産便り | H20. 11・12 |
| 稲発酵粗飼料を利用してみませんか ～特性と利用方法～ | | いきいき家畜衛生ネット | 第 8 4 号 H20. 11 |
| 1年1産を目指して！ （ITを活用した発情検知システムの開発） | 和牛改良部 生産技術科 | 岡山畜産便り | H21. 1 |
| 国産銘柄鶏「おかやま地どり」をバージョンアップ！ （原種鶏の改良技術の検討） | 環境家畜部 中小家畜科 | 岡山畜産便り | H21. 2 |
| 平成19年度牛群検定成績から | 有安 則夫 | 岡山畜産便り | H21. 3 |

3 その他

| 広 報 内 容 | 発 表 先 | 年 月 日 |
|---------------------------------------|--------|-------------|
| 香りさわやか 心癒す 美咲・まきばの館 ラベンダー見ごろ | 山陽新聞 | H20. 6. 22 |
| 温暖化の「農」「漁」研究チーム発足 岡山県、初会合で影響報告 | 産経新聞 | H20. 7. 10 |
| ふるさと作州再発見 夏～涼景 乳の量と味守る扇風機 | 山陽新聞 | H20. 8. 3 |
| 混合堆肥を試作 岡山県総合畜産センター 有効期間、養分検証へ | 山陽新聞 | H20. 8. 24 |
| 食材最前鮮 ブランドを育てる 岡山県「おかやま地どり」 | 日経MJ | H20. 9. 29 |
| 和牛肥育に稲発酵粗飼料 岡山県畜産センター試験開始 | 山陽新聞 | H20. 10. 19 |
| 畜産加工品など販売 まきばの館 秋の味覚フェア | 山陽新聞 | H20. 10. 24 |
| 食品残さで飼料開発 異業種グループ発足 | 山陽新聞 | H20. 10. 26 |
| 食品残さ飼料化研究 岡山県内メーカー相次ぎ | 山陽新聞 | H20. 11. 2 |
| 揺れる岡山県の9試験研究機関 構造改革プラン素案 | 山陽新聞 | H20. 11. 16 |
| うしものがたり 発情・分娩を検知 | 朝日新聞 | H21. 1. 6 |
| もやしをTMRに 岡山県総合畜産センター | 日本農業新聞 | H21. 1. 8 |
| 食品業者8割が廃棄 飼料として活用不十分 岡山県総合畜産センター調べ | 山陽新聞 | H21. 1. 15 |
| 乳質改善や残渣飼料化 岡山で業績発表会 | 山陽新聞 | H21. 1. 16 |
| 節目祝い発展を誓う 県畜産センター開所20周年式典 | 津山朝日新聞 | H21. 2. 13 |
| メタンとともに水素生成 岡山県畜産センター実験着手 | 山陽新聞 | H21. 3. 15 |
| 県産卵や鶏肉販売 岡山 こっこちゃんフェア | 山陽新聞 | H21. 3. 15 |
| 遊休農地活用を 高粱地域対策協が研修会 | 山陽新聞 | H21. 3. 17 |
| 地場産「うま〜い」 岡山県養鶏協会がこっこちゃんフェア | 日本農業新聞 | H21. 3. 17 |

Ⅲ 総 務

1 沿 革

| | | |
|-------|-----|--|
| 明治37年 | 6月 | 岡山県種畜場開場（現在の岡山市京山） |
| 大正10年 | 6月 | 岡山県種畜場千屋分場開場 |
| 大正12年 | 10月 | 養鶏業務開始 |
| 昭和12年 | 12月 | 岡山県種畜場千屋分場を、岡山県千屋種畜場として独立これに伴い岡山県種畜場は、岡山県岡山種畜場と改称 |
| 昭和22年 | 4月 | 岡山県津山畜産指導農場開場（その後津山畜産農場と改称） |
| 昭和24年 | 11月 | 岡山種畜場を御津郡牧石村三軒屋（現在の岡山市宿）に移転 |
| 昭和31年 | 4月 | 養鶏，酪農，和牛の三試験場発足岡山県養鶏試験場は、岡山市平田に開設 |
| 昭和34年 | 4月 | 酪農試験場蒜山分場開設 |
| 昭和37年 | 4月 | 酪農試験場養豚業務開始 |
| 昭和42年 | 10月 | 和牛試験場，大佐町（現在の新見市大佐）へ移転 |
| 昭和47年 | 4月 | 養鶏試験場，御津町（現在の岡山市御津）へ移転 |
| 平成元年 | 4月 | 養鶏，酪農，和牛各試験場を再編整備し，岡山県総合畜産センターを開設岡山県公共育成センター，岡山県畜産経営環境技術センター，岡山県立農業大学校旭分校及び農林部普及園芸課旭地方専技室（現在は農業総合センター技術普及課旭分室）併設 |
| 平成3年 | 3月 | 大佐支所閉所 |
| 平成3年 | 4月 | 大佐支所を本所に統合 まきばの館開所 |
| 平成18年 | 3月 | 農業総合センター技術普及課旭分室 本課へ統合 |

2 位置及び交通

久米郡美咲町北2272

JR津山駅より西25km，中国自動車道院庄ICから西22km，落合ICから東25km，米子自動車道久世ICから11kmの美咲町の西北端標高437mに位置する。

3 地 積

（単位：ha）

| 建物敷地 | 草地・放牧地 | 飼料畑 | その他 | 計 |
|------|--------|-----|------|-------|
| 17.7 | 49.1 | 9.9 | 87.0 | 163.7 |

4 公有財産

建 物

| 建物番号 | 名 称 | 面積 _{m²} | 建物番号 | 名 称 | 面積 _{m²} |
|------|-----------|-----------------------------|------|-----------|-----------------------------|
| 1 | 研究管理棟 | 1,980.00 | 15 | 職員公舎（家族用） | 64.00 |
| 2 | 車庫 | 166.65 | 16 | 職員公舎（家族用） | 64.00 |
| 3 | ガス庫（特殊ガス） | 17.50 | 17 | 職員公舎（家族用） | 64.00 |
| 4 | 機械室棟 | 165.00 | 18 | 職員公舎（家族用） | 49.00 |
| 5 | 電気室 | 98.00 | 19 | 職員公舎（家族用） | 49.00 |
| 6 | ガス庫 | 13.50 | 20 | 職員公舎（家族用） | 49.00 |
| 7 | 研修館 | 495.72 | 21 | 事務所 | 92.75 |
| 8 | 畜産物加工室 | 390.00 | 22 | 収納舎 | 401.39 |
| 9 | 研修寮 | 813.20 | 23 | 給油庫 | 6.48 |
| 10 | 職員公舎（独身用） | 732.60 | 24 | 農機具庫 | 262.66 |
| 11 | 職員公舎（独身用） | 732.60 | 25 | 農機具庫 | 203.00 |
| 12 | ガス庫 | 13.50 | 26 | ガラス庫 | 50.00 |
| 13 | 浄化槽棟 | 111.37 | 27 | ボイラー庫 | 9.00 |
| 14 | 職員公舎（家族用） | 64.00 | 28 | 幼すう舎 | 109.30 |

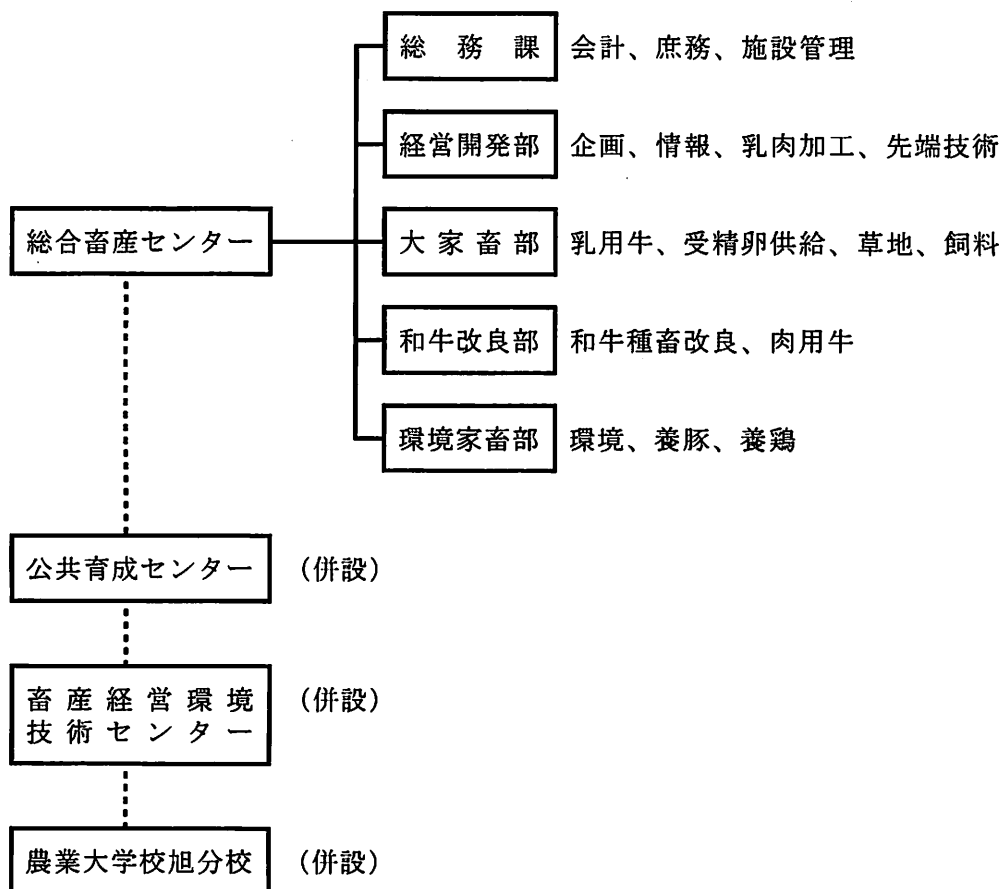
| 建物番号 | 名 称 | 面 積 m ² | 建物番号 | 名 称 | 面 積 m ² |
|------|--------------|--------------------|------|------------|--------------------|
| 29 | 中すう舎 1号舎 | 84.46 | 70 | 乳用牛試験牛舎 | 620.49 |
| 30 | 中すう舎 2号舎 | 84.46 | 71 | 衛生舎 | 138.70 |
| 31 | 大すう舎 1号舎 | 276.84 | 72 | 肉用牛試験牛舎 | 939.80 |
| 32 | 大すう舎 2号舎 | 276.84 | 73 | 哺育牛舎 | 494.63 |
| 33 | 大すう舎 3号舎 | 276.84 | 74 | 堆肥舎, 糞乾燥施設 | 2,212.50 |
| 34 | 大すう舎 4号舎 | 276.84 | 75 | 病理検査室 | 125.14 |
| 35 | 育成鶏舎(ウイントレス) | 211.00 | 76 | 牛舎場 | 27.84 |
| 36 | ふ卵舎 | 194.40 | 77 | トラックスケール場 | 53.36 |
| 37 | 自家発電機室 | 49.40 | 78 | 倉庫, 飼料庫 | 81.00 |
| 38 | 生産物処理室 | 181.20 | 79 | 事務所 | 79.49 |
| 39 | 事務所 | 132.49 | 80 | 電気室 | 37.50 |
| 40 | 放飼舎 | 150.00 | 81 | 車 庫 | 58.00 |
| 41 | 機械格納庫 | 222.04 | 82 | 試験豚舎 | 145.80 |
| 42 | 飼料倉庫 | 194.51 | 83 | 繁殖豚舎 | 471.08 |
| 43 | ズートロン | 129.18 | 84 | 分娩子豚育成豚舎 | 392.62 |
| 44 | 成鶏 1号舎 | 332.10 | 85 | 肥育・後代検定豚舎 | 504.00 |
| 45 | 成鶏 2号舎 | 332.10 | 86 | 直接検定豚舎 | 224.776 |
| 46 | 成鶏 3号舎 | 332.10 | 87 | 地域特産豚舎 | 153.90 |
| 47 | 成鶏 4号舎 | 251.50 | 88 | 検疫豚舎 | 40.320 |
| 48 | 成鶏 5号舎 | 533.99 | 89 | 糞尿酸酵処理施設 | 625.90 |
| 49 | 成鶏 6号舎 | 533.99 | 90 | 肥育牛舎 | 254.050 |
| 50 | 成鶏 7号舎 | 619.20 | 91 | 間接検定牛舎 | 888.70 |
| 51 | 成鶏 8号舎 | 524.81 | 92 | 直接検定牛舎 | 738.440 |
| 52 | 特用家禽舎 | 231.00 | 93 | 種雄牛舎 | 999.42 |
| 53 | 糞尿酸酵乾燥施設 | 493.56 | 94 | 作業舎 | 39.740 |
| 54 | 解剖室 | 47.25 | 95 | 精液採取保管室 | 205.33 |
| 55 | 事務所 | 251.35 | 97 | 繁殖牛舎B | 162.00 |
| 56 | 車 庫 | 49.68 | 98 | 繁殖牛舎C | 608.63 |
| 57 | 農機具庫 | 129.60 | 99 | 農機具庫(第3) | 177.50 |
| 58 | 特用畜舎 | 192.15 | 100 | 避難舎(第1放牧場) | 72.00 |
| 59 | 育成牛舎 | 524.76 | 101 | 避難舎 | 72.00 |
| 60 | 電気室 | 37.50 | 102 | 飼料庫 | 30.03 |
| 61 | 収納庫 | 193.00 | 103 | 堆肥舎 | 4.96 |
| 62 | 受精卵処理室 | 207.60 | 104 | レストラン棟 | 803.68 |
| 63 | 供卵牛舎 | 418.81 | 105 | 厩 舎 | 212.00 |
| 64 | 消化試験牛舎 | 367.71 | 106 | クラブハウス | 103.90 |
| 65 | 肥育牛舎 | 504.56 | 107 | 種雄豚舎 | 137.80 |
| 66 | 観察牛舎 | 181.50 | 108 | 堆肥舎 | 878.00 |
| 67 | 気密サイロ棟 | 114.40 | 109 | 機械室 | 38.00 |
| 68 | 後代検定牛舎 | 804.61 | 110 | コジュネ装置格納庫 | 17.00 |
| 69 | 牛乳処理室 | 35.10 | 111 | 脱水ケーキ排出場 | 14.00 |

工 作 物

| 名 称 | 構 造 | 個 所 数 |
|------------|-----------------|-------|
| 自転車置場 | S造 平屋建 スレート葺 | 1 |
| 焼 却 炉 | S造 平屋建 カラーベスト葺 | 1 |
| 水道施設 | 浄水場, 配水タンク, 取水池 | 1 |
| 洗 車 場 | R C造 | 1 |
| 気象観測装置 | | 1 |
| 器具洗場 | R C造 | 2 |
| ゲート消毒装置 | R C造 | 1 |
| 汚水浄化処理施設 | R C造 | 2 |
| 屋外便所 | F R P造 | 2 |
| マイクロゲート | R C造 | 1 |
| テレビ共聴施設 | | 1 |
| 牛尿処理施設 | R C造 スラリータンク | 1 |
| 破砕機(受入ホッパ) | コンクリート | 1 |
| 攪拌機(受入混合層) | | 1 |
| 焼 却 炉 | S造 平屋建 スレート葺 | 3 |
| 池井(集水井戸) | コンクリート造 | 4 |
| 土壌, 植物濾床 | S造 ビニールハウス | 1 |
| 豚出荷台 | R C造 | 1 |
| 汚泥ポンプ | | 1 |
| 種雄牛繫場 | | 1 |
| 種雄牛運動機 | | 1 |
| 井戸(打木沢) | | 1 |
| 井戸(友重) | | 1 |
| 井戸(第1放牧場) | | 1 |
| 車両用スロープ | コンクリート造 | 1 3 |
| 受水槽(第2放牧場) | R C造 | 1 |
| ダニ駆除施設 | 鉄製枠造 | 2 |

5 職員の状況

(1) 行政組織



(2) 定数現員対照表

| 職名別 区 別 | 吏 員 | | | そ の 他 | | | | | 合計 | 左記以外のもの | | 備 考 |
|------------|-----|----|----|-------|--|--|-------------|----|----|------------------|------------------|-----|
| | 事務 | 技術 | 計 | 技術員 | | | 技術員 (畜産) | 計 | | 日 々 用 雇 | 非 常 勤 員 | |
| 定 員 | 6 | 31 | 37 | 3 | | | 28 | 31 | 68 | 0 | 0 | |
| 現 員 | 6 | 30 | 36 | 3 | | | 28 | 31 | 67 | 0 | 0 | |
| 過(△)不足 | 0 | △1 | 0 | 0 | | | 0 | 0 | △1 | 0 | 0 | |

(3) 職員一覧表

(注) 備考欄の(兼)は公共育成センター、畜産経営環境技術センター兼務

| 所属 | 事務分掌 | 当所在職年数 | 職名 | 職種 | 氏名 | 備考 |
|-------|------------|--------|----------------|-------|--------|-----|
| 総務課 | 所 総 括 | 2.0 | 所 長 | 獣医 | 金山 聖 | (兼) |
| | 所長補佐(事務) | 1.0 | 次 長 | 事務 | 加藤 利通 | |
| | 所長補佐(技術) | 2.0 | " | 獣医 | 西家 忠治 | (兼) |
| | 総 務 総 括 | | 総 務 課 長 | | (事務次長) | |
| | 総 括 補 佐 | 2.0 | 主 幹 | 事務 | 佐々木真次 | |
| | 庶 務 ・ 会 計 | 1.0 | 主 幹 | " | 角南 信也 | |
| | " | 2.0 | 主 任 | " | 隅田めぐみ | |
| | " | 17.0 | 主 任 | " | 殊井 麗子 | |
| | " | 3.0 | 主 任 | " | 板持 泰史 | |
| | 自動車運転整備 | 5.0 | 技術員 | 現業 | 樋口 久男 | |
| 経営開発部 | 部 総 括 | 20.0 | 部 長 | 畜産 | 栗木 隆吉 | |
| | 企 画 ・ 情 報 | 1.0 | 専門研究員 | 獣医 | 山田 徹夫 | |
| | 畜産技術者の研修 | 4.0 | 技 師 | 畜産 | 朝倉麻由子 | |
| | 畜産物の品質改善 | 2.0 | 専門研究員 | 獣医 | 平田 祐介 | |
| | 畜産物の加工技術開発 | 4.06 | 技 師 | 獣医 | 横内 百合香 | |
| | DNA情報の利用技術 | 3.0 | " | 畜産 | 中藤 由紀 | |
| | 庁 務 | 20.0 | 主任技術員 | 現業 | 安達 孝子 | |
| 大家畜部 | 部 総 括 | 20.0 | 部 長 | 獣医 | 小田 頼政 | (兼) |
| | 乳用牛の試験研究 | 3.0 | 専門研究員 | 畜産 | 長尾伸一郎 | (兼) |
| | 飼料作物の調査研究 | 1.0 | 研 究 員 | 獣医 | 有安 則夫 | (兼) |
| | 乳用牛の試験研究 | 3.0 | " | " | 田中 健嗣 | (兼) |
| | 乳用牛の試験研究 | 2.0 | " | " | 森清 邦彦 | |
| | 受精卵移植研究 | 3.0 | 専門研究員 | 畜産 | 中原 仁 | (兼) |
| | " | 1.0 | 研 究 員 | 獣医 | 坂部 吉彦 | (兼) |
| | " | 2.0 | " | " | 小田原 春菜 | |
| | 乳用牛の飼育管理 | 2.0 | 主任技術員 (畜 産) | 現業 | 樋口 照夫 | |
| | " | 20.0 | 技術員(畜産) | " | 谷口 雅賢 | |
| | " | 16.0 | " | " | 湛増 美好 | |
| | " | 16.0 | " | " | 山田 庄市 | |
| | " | 17.0 | " | " | 安藤 芳宏 | |
| | " | 15.0 | " | " | 和田 和正 | |
| | " | 12.0 | " | " | 横山 明彦 | |
| " | 18.0 | " | " | 氏平 豪人 | | |

| 所属 | 事務分掌 | 当所在職年数 | 職名 | 職種 | 氏名 | 備考 |
|-----------|------------|--------|------------------|----|--------|-----|
| 和牛改良部 | 部 総 括 | | 和牛改良部長 | | (技術次長) | (兼) |
| | 和牛の育種改良 | 2.0 | 専門研究員 | 獣医 | 馬場 誠 | |
| | 〃 | 5.0 | 研 究 員 | 畜産 | 片岡 博行 | (兼) |
| | 〃 | 1.05 | 技 師 | 獣医 | 中町 康人 | |
| | 繁殖雌牛の系統造成 | 6.0 | 専門研究員 | 畜産 | 木曾田 繁 | (兼) |
| | 〃 | 3.0 | 研 究 員 | 獣医 | 瀬尾 聡一 | |
| | 〃 | 4.00 | 技 師 | 〃 | 笹尾 浩史 | |
| | 和牛の飼育管理 | 20.0 | 主任技術員 (畜 産) | 現業 | 佐藤 久夫 | |
| | 〃 | 17.0 | 技術員 (畜産) | 〃 | 福島 満志 | |
| | 〃 | 16.0 | 〃 | 〃 | 定本 護 | |
| | 〃 | 13.0 | 〃 | 〃 | 杉山 卓 | |
| | 〃 | 18.0 | 〃 | 〃 | 岡本 元正 | |
| | 〃 | 13.0 | 〃 | 〃 | 高山 勲 | |
| | 〃 | 20.0 | 主任技術員 (畜 産) | 〃 | 上田 利男 | |
| | 〃 | 2.0 | 技術員 (畜産) | 〃 | 山本 重治 | |
| | 〃 | 4.0 | 〃 | 〃 | 大平 嘉秀 | |
| | 〃 | 20.0 | 〃 | 〃 | 村田 和弘 | |
| | 〃 | 15.0 | 〃 | 〃 | 福井 康勝 | |
| 環 境 家 畜 部 | 部 総 括 | 3.0 | 特別企画専門員 (部 長) | 畜産 | 曙地 勅和 | (兼) |
| | 鶏・豚の改良研究 | 12.0 | 専門研究員 | 獣医 | 森 尚之 | |
| | 〃 | 3.0 | 〃 | 〃 | 橋田 明彦 | |
| | 〃 | 4.0 | 技 師 | 畜産 | 金谷 健史 | |
| | 〃 | 1.0 | 技 師 | 〃 | 立川 優子 | |
| | 畜産環境保全調査研究 | 8.0 | 専門研究員 | 獣医 | 白石 誠 | (兼) |
| | 〃 | 2.0 | 研 究 員 | 畜産 | 水木 剛 | (兼) |
| | 〃 | 1.0 | 技 師 | 獣医 | 梯 洋介 | (兼) |
| | 〃 | 12.0 | 技術員 | 現業 | 飯田 美保 | |
| | 豚の飼育管理 | 1.0 | 主任技術員 (畜 産) | 現業 | 青山 利通 | |
| | 〃 | 3.0 | 技術員 (畜産) | 〃 | 服部 一洋 | |
| | 〃 | 4.0 | 〃 | 〃 | 大本 昌也 | |
| | 〃 | 2.0 | 〃 | 〃 | 有富 勝仁 | |
| | 〃 | 17.0 | 〃 | 〃 | 福島 敏道 | |
| | 鶏の飼育管理 | 20.0 | 主任技術員 (畜 産) | 〃 | 高橋 俊彦 | |
| | 〃 | 2.0 | 〃 | 〃 | 磯田 博 | |
| | 〃 | 20.0 | 技術員 (畜産) | 〃 | 金森 孝史 | |
| | 〃 | 9.10 | 〃 | 〃 | 黒住 直之 | |

6 予算及び決算

(1) 平成20年度一般会計歳入決算書

単位：円

| 款 | 項 | 目 | 節 | 調定額 | 収入済額 |
|------|--------|---------------|------------------|-------------|-------------|
| 財産収入 | 財産運用収入 | 財産貸付収入 | 県公舎貸付収入 | 2,356,350 | 2,356,350 |
| | 財産売払収入 | 物品売払収入 | 畜産試験場生産品及び畜類売払収入 | 138,391,466 | 138,391,466 |
| 諸収入 | 受託事業収入 | 農林水産事業費受託事業収入 | 畜産試験場費 | 13,647,201 | 13,647,201 |
| | 雑入 | 雑入 | 雑入 | 166,380 | 166,380 |
| 合計 | | | | 154,561,397 | 154,561,397 |

(2) 平成20年度一般会計歳出決算書

単位：円

| 款 | 項 | 目 | 予算額 | 支出済額 | 残額 |
|--------|-------|---------|-------------|-------------|-------|
| 総務費 | 総務管理費 | 人事管理費 | 190,000 | 190,000 | 0 |
| | | 財産管理費 | 3,150 | 3,150 | 0 |
| 農林水産業費 | 農業費 | 農業総務費 | 542,000 | 542,000 | 0 |
| | | 農作物対策費 | 2,011,000 | 2,011,000 | 0 |
| | 畜産業費 | 畜産振興費 | 43,799,580 | 43,799,580 | 0 |
| | | 家畜保健衛生費 | 400,000 | 400,000 | 0 |
| | | 畜産試験場費 | 259,972,400 | 259,967,391 | 5,009 |
| 合計 | | | 306,918,130 | 306,913,121 | 5,009 |

7 職員の研修

| 研 修 名 | 受 講 者 | 受 講 期 間 |
|---|-------|-----------------|
| (独)農業・生物系特定産業技術研究機構 長期研修 | 金谷 健史 | H20. 5. 7～ 8. 8 |
| 肉用牛中央研修 | 中町 康人 | H20. 6.30～ 7. 4 |
| 畜産環境アドバイザー研修（第1回中央 研修会基礎技術コース堆肥化処理・利用 技術講座） | 梯 洋介 | H20. 7.14～ 7.18 |
| 中央畜産技術研修会（畜産環境保全） | 梯 洋介 | H20. 8.25～ 8.28 |

IV 業 務

1 乳用牛飼養管理の概要

飼料給与方法は、トウフ粕、醤油粕等の食品副産物を用いたTMR給与をベースにし、乳量、泌乳ステージ等を考慮し自動給餌機による濃厚飼料の給与を行っている。また、センター内のパドック、放牧場を有効に活用し牛の健康管理に努めた。改良については日本ホルスタイン登録協会の牛群審査を受検するとともに、牛群検定に加入し、体型審査結果並びに牛群改良情報をもとに年次的な交配計画をたて、優良牛の生産を進め計画的な更新を図った。

超高能力牛群造成高度利用システム化事業を積極的に推進するために、平成5年から平成9年に導入した超高能力牛及びその後継牛に対し飼養管理等充分留意し、受精卵の採卵に努めるとともに、超高能力牛の雌受精卵を酪農家に供給した。

(1) 乳用牛の移動状況

(頭)

| 品 種 ・ 区 分 | 年度始 頭 数 | 受 入 | | | | 払 出 | | | | 年度末 頭 数 | |
|-----------------------|------------|-----|-----|-------|----|-------|-----|-----|----|------------|----|
| | | 購 入 | 生 産 | 移 動 | 計 | 譲 渡 | 死 亡 | 移 動 | 計 | | |
| 一 般 試 験 牛 | ホルスタイン種成雌牛 | 41 | | | 18 | 18 | 10 | 1 | | 11 | 48 |
| | 〃 育成牛 | 35 | | 10(4) | | 10(4) | | | 20 | 20 | 25 |
| | 〃 雄子牛 | 0 | | 9(2) | | 9(2) | 8 | | | 8 | 1 |
| | ジャージー種成雌牛 | 4 | | | | | 1 | | | 1 | 3 |
| | 〃 育成牛 | 2 | | 2 | | 2 | | | | | 4 |
| | 〃 雄子牛 | 0 | | | | | | | | | 0 |
| 供 卵 牛 | ホルスタイン種成雌牛 | 9 | | | 2 | 2 | 4 | | | 4 | 7 |
| | 〃 育成牛 | 2 | 1 | 1 | | 2 | | | 2 | 2 | 2 |
| | 〃 雄子牛 | 0 | | | | | | | | | 0 |
| そ の 他 | 和牛・F1種雌子牛 | 0 | | 3 | | 3 | 2 | | 1 | 3 | 0 |
| | 〃 雄子牛 | 0 | | 12(1) | | 12(1) | 11 | | | 11 | 1 |
| 計 | | 93 | 1 | 37(7) | 20 | 58(7) | 36 | 1 | 23 | 60 | 91 |

注：() 内は死産で外数

(2) 牛乳の生産と処理

(kg)

| 生産乳量 | 工場売払 | 試験用 | 加工試験 | その他 | 無償払下 | 処分量計 |
|-----------|-----------|------|------|---------|------|-----------|
| 348,545.2 | 336,067.1 | 31.4 | 0.0 | 12434.7 | 12.0 | 348,545.2 |

(3) 超高能力牛群造成高度利用システム化事業

(回、卵数)

| 採卵回数 | 正常卵数 | (内Aランク) | 譲渡卵数 | 所内利用 | 試験用 | 廃棄卵数 | 無償払下 |
|------|------|---------|------|------|-----|------|------|
| 55 | 386 | 329 | 163 | 40 | 176 | 30 | 0 |

昨年度からの繰入れ量 182卵

次年度への繰越し量 386卵

譲渡卵163卵の内、性別別雌卵が161卵

(4) 牛の受精卵の雌雄判別(手数料)

(回、卵数)

| 受 入 | | 判 別 |
|-----|-----|-----|
| 回 数 | 卵 数 | 卵 数 |
| 46 | 90 | 90 |

(5) 各共進会への出品

(頭)

| 開催年月 | 共 進 会 名 | 頭 数 | 成 績 |
|---------|-----------------|-----|--|
| 平成20年4月 | 中国地区ブラック&ホイトショウ | 1 | 1等3席 (未經産) 1 |
| 4月 | 中部日本ブラック&ホイトショウ | 1 | 1等3席 (未經産) 1 |
| 9月 | 津山地区畜産共進会 | 2 | チャンピオン (未經産) 1 リザーブチャンピオン (未經産) 1 |
| 9月 | おからく津山支所乳牛共進会 | 5 | チャンピオン (未經産) 1 1等2席 (未經産・経産) 各1 リザーブチャンピオン (経産) 1 1等5席 (経産) 1 |
| 10月 | 畜産共進会 | 3 | チャンピオン (未經産) 1 優等4席 (未經産) 1 優等5席 (経産) 1 |
| 平成21年3月 | おからくスプリングショウ | 4 | リザーブチャンピオン (未經産) 1 1等1席 (未經産) 1 1等2席 (経産) 1 2等1席 (経産) 1 |

2 和牛飼養管理の概要

種雄牛については、産肉能力検定（直接検定、現場後代検定）を実施し、経済形質の育種価が高い種雄牛を計画的に作出することに努めた。また、種雄牛の精液生産と県内農家への配布を行った。

繁殖牛は、それぞれ試験研究及び事業計画に基づいて飼養管理を行った。

周年屋外飼養技術の確立のため、公共育成センター放牧場において秋季備蓄草地と稲WCSを組み合わせた冬期放牧を行い、年間を通じた成牛の放牧を行った。また、低コスト生産をめざした繁殖技術の向上及び子牛の哺育育成、飼養管理技術について検討するとともに、ITを活用した新しい発情検知システムの開発に取り組んだ。

また、岡山和牛（雌）の改良と遺伝子保存のため、岡山系雌牛の計画的な交配により系統の固定化を進め、優良牛の生産と系統牛の保留に努めるとともに、場内及び子牛市場において定期的に体測を行うことで産子の発育状況を調査した。

供卵牛は、正常卵率の向上、また、受卵牛については、高受胎率となるように細心の注意を払い、牛舎に隣接したパドック及び放牧場に出して運動させ、削蹄及び牛舎消毒は定期的に行った。

(1) 和牛の移動状況

| 区分 | 性 | 年度初 | 受 入 | | | | 払 出 | | | | 年度末 | |
|----------------------|-----|-----|-----|----|----|----|-----|----|----|----|-----|-----|
| | | 頭数 | 生産 | 購入 | 編入 | 転入 | 売却 | 斃死 | 編出 | 転出 | 頭数 | |
| 岡山和牛（雌）の改良と遺伝子保存 | 成 牛 | 雌 | 34 | | | 5 | | 7 | | | | 32 |
| | 育成牛 | 雌 | 4 | | | 3 | | | | 5 | | 2 |
| | 肥育牛 | 雄・雌 | 0 | | | | | | | | | 0 |
| | 子 牛 | 雌 | 10 | | | | | | | 3 | 7 | 0 |
| | 子 牛 | 雄 | 10 | | | | | 6 | | | 4 | 0 |
| | 計 | | 58 | | | | | | | | | 34 |
| 生産性向上のための哺育育成システムの構築 | 成 牛 | 雌 | 13 | | | 3 | | 9 | | | | 7 |
| | 育成牛 | 雌 | 3 | | | 2 | | | | 3 | | 2 |
| | 肥育牛 | 雄・雌 | 0 | | | | | | | | | 0 |
| | 子 牛 | 雌 | 3 | 21 | 2 | | | 1 | | 2 | 4 | 19 |
| | 子 牛 | 雄 | 2 | 29 | | | | 2 | 2 | | 7 | 20 |
| | 計 | | 21 | | | | | | | | | 48 |
| ITを活用した発情検知システムの開発 | 成 牛 | 雌 | 28 | | | 2 | | 6 | 1 | | | 23 |
| | 育成牛 | 雌 | 3 | | | 2 | | 1 | | 2 | | 2 |
| | 肥育牛 | 雄・雌 | 0 | | | | | | | | | 0 |
| | 子 牛 | 雌 | 7 | | | | | 3 | | 2 | 2 | 0 |
| | 子 牛 | 雄 | 4 | | | | | 2 | | | 2 | 0 |
| | 計 | | 42 | | | | | | | | | 25 |
| 優良雌牛利用対策事業 | 成 牛 | 雌 | 29 | | 5 | 4 | | 3 | | | | 35 |
| | 育成牛 | 雌 | 4 | | | 5 | | | | 4 | | 5 |
| | 肥育牛 | 雄・雌 | 0 | | | | | | | | | 0 |
| | 子 牛 | 雌 | 5 | 12 | 4 | | 1 | | | 5 | 3 | 14 |
| | 子 牛 | 雄 | 5 | 11 | | | | 1 | 1 | | 7 | 7 |
| | 計 | | 43 | | | | | | | | | 61 |
| 合計 | 成 牛 | 雌 | 104 | | 5 | 14 | | 25 | 1 | | | 97 |
| | 育成牛 | 雌 | 14 | | | 12 | | 1 | | 14 | | 11 |
| | 肥育牛 | 雄・雌 | 0 | | | | | | | | | 0 |
| | 子 牛 | 雌 | 25 | 33 | 6 | | 1 | 4 | | 12 | 16 | 33 |
| | 子 牛 | 雄 | 21 | 40 | | | | 11 | 3 | | 20 | 27 |
| | 総計 | | 164 | | | | | | | | | 168 |

| 試験事業名 | 品種 | 区分 | 性 | 年度始 頭数 | 受 入 払 出 | | | | | | | | 年度末 頭数 | |
|-------------------|----|-------|----|-----------|---------|--------|--------|----|--------|--------|--------|--------|-----------|-----|
| | | | | | 購 入 | 編 入 | 受 託 | 計 | 売 却 | 死 亡 | 編 出 | 返 納 | | 計 |
| 種雄牛及び人工授精 | 和牛 | 種雄牛 | 雄 | 17 | | 3 | | 3 | 3 | | | | 3 | 17 |
| 産肉能力検定 (直接法) | 和牛 | 直接検定牛 | 雄 | 8 | 7 | 8 | | 15 | 4 | | 9 | | 13 | 10 |
| 産肉能力検定 (後代検定法) | 和牛 | 後代検定牛 | 去勢 | 57 | 9 | 22 | | 31 | 36 | 1 | 4 | | 41 | 47 |
| | | | 雌 | 44 | 13 | 17 | | 30 | 14 | | 1 | | 15 | 59 |
| | | | 計 | 101 | 22 | 39 | | 61 | 50 | 1 | 5 | 0 | 56 | 106 |
| 合 計 | | | | 126 | 29 | 50 | 0 | 79 | 57 | 1 | 14 | 0 | 72 | 133 |

(2) 凍結精液の生産と売り払い状況

岡山県における家畜人工授精のメインセンターとして、凍結精液の生産及び売り払いを行った。県内への売り払いについては、おかやま酪農業協同組合に一括売り払い、県内農家の需要に応じた。

1) 採精状況

| 区分 名 号 | 精 液 採 取 | | | 凍 結 精 液 | | | |
|-----------|-----------|-------------|--------------------|-------------|-----|---------------|-----------------|
| | 回数 (回) | 精液量 (ml) | 1回当たり 平均量(ml/回) | 生産本数 (本) | pH | 精子数 (億/ml) | 凍結後活力 (+++%) |
| 利花 | 5 | 34.0 | 6.8 | 910 | 6.5 | 15.6 | 60.0 |
| 沢茂勝 | 13 | 94.0 | 7.2 | 1,752 | 6.5 | 11.5 | 56.2 |
| 勝福茂 | 8 | 63.0 | 7.9 | 816 | 6.5 | 7.5 | 55.6 |
| 花茂勝2 | 9 | 97.5 | 10.8 | 1,820 | 6.5 | 12.3 | 51.7 |
| 西花8 | 7 | 53.0 | 7.6 | 1,011 | 6.5 | 13.1 | 56.0 |
| 銀嶺 | 5 | 38.5 | 7.7 | 975 | 6.6 | 17.1 | 56.0 |
| 新北紀 | 3 | 16.0 | 5.3 | 310 | 6.5 | 14.5 | 57.5 |
| 新糸藤 | 8 | 47.5 | 5.9 | 1,420 | 6.5 | 20.6 | 55.0 |
| 新初英 | 7 | 44.0 | 6.3 | 594 | 6.6 | 10.6 | 60.0 |
| 第11実 | 2 | 6.5 | 3.3 | 195 | 6.4 | 20.9 | 58.0 |
| 西乃糸藤 | 2 | 10.0 | 5.0 | 190 | 6.5 | 14.5 | 37.5 |
| 春糸藤 | 2 | 10.0 | 5.0 | 220 | 6.5 | 14.5 | 57.5 |
| 藤美咲 | 3 | 14.5 | 4.8 | 260 | 6.6 | 11.4 | 48.3 |
| 勝真太 | 2 | 14.5 | 7.3 | 10 | 6.6 | 11.4 | 48.3 |
| 久高嶺 | 3 | 16.0 | 5.3 | 265 | 6.5 | 11.5 | 53.3 |
| 花茂玉 | 4 | 29.5 | 7.4 | 660 | 6.5 | 12.4 | 38.8 |
| 北盛栄 | 7 | 23.0 | 3.3 | 425 | 6.9 | 12.2 | 50.0 |
| 美盛栄 | 4 | 20.0 | 5.0 | 375 | 6.7 | 11.5 | 43.8 |
| 合 計 | 94 | 631.5 | | 12,208 | | | |
| 平 均 | 5.2 | 35.1 | 6.7 | 717 | 6.6 | 13.5 | 52.4 |

2) 凍結精液受け払い状況

| 平成19年 度からの 繰り入れ | 受 入 | | | 払 出 | | | | | | | 平成21 年度へ 繰 越 |
|-----------------------|--------|----|--------|----------|----------|----------|----------|----------|-------|--------|--------------------|
| | 生産 | 購入 | 計 | 破損 交換 | 県内 売払 | 県外 売払 | 所内 利用 | 試験 利用 | 廃棄 | 計 | |
| 90,781 | 12,208 | 50 | 12,258 | 0 | 5,032 | 0 | 228 | 190 | 6,721 | 12,171 | 90,868 |

注意：購入には調整交配のための県外精液を含む

3) 精液売り払い状況

| 区分 | 西大寺 | 備南 | ひほく | 津山 | 県外 | 合計 |
|------|-----|-----|-------|-------|----|-------|
| 利花 | 9 | 20 | 173 | 31 | 0 | 233 |
| 花茂勝2 | 65 | 110 | 267 | 474 | 0 | 916 |
| 沢茂勝 | 35 | 92 | 349 | 1,040 | 0 | 1,516 |
| 勝福茂 | 0 | 80 | 114 | 193 | 0 | 387 |
| 第5北盛 | 9 | 0 | 41 | 194 | 0 | 244 |
| 西花8 | 10 | 7 | 105 | 72 | 0 | 194 |
| 銀嶺 | 5 | 63 | 43 | 160 | 0 | 271 |
| 新北紀 | 0 | 0 | 0 | 90 | 0 | 90 |
| 平鶴 | 0 | 0 | 4 | 18 | 0 | 22 |
| 新糸藤 | 5 | 340 | 10 | 402 | 0 | 757 |
| 新初英 | 15 | 0 | 0 | 301 | 0 | 316 |
| 糸藤 | 0 | 0 | 6 | 5 | 0 | 11 |
| 第11実 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 藤美咲 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 勝真太 | 0 | 20 | 0 | 30 | 0 | 50 |
| 茂洋 | 0 | 0 | 12 | 13 | 0 | 25 |
| 合計 | 153 | 732 | 1,124 | 3,023 | 0 | 5,032 |

(3) ジーンバンク受精卵保存内容

| 平成19年度 から 繰り入れ | 受入 | 払出 | | | | | 平成21年度 へ 繰り越し |
|----------------------|------|------|------|-----|----|---|---------------------|
| | 正常卵数 | 売払卵数 | 所内使用 | 試験用 | 廃棄 | 計 | |
| 720 | 55 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 775 |

(4) 優良雌牛利用対策事業受精卵譲渡内容

| 平成19年度 から 繰り入れ | 受入 | 払出 | | | | | 平成21年度 へ 繰り越し |
|----------------------|------|------|------|-----|----|-----|---------------------|
| | 正常卵数 | 売払卵数 | 所内使用 | 試験用 | 廃棄 | 計 | |
| 352 | 705 | 370 | 29 | 72 | 89 | 560 | 497 |

3 豚の飼養管理の概要

繁殖豚の更新のため、岩手県 全農東日本原種豚場からデュロック種系統造成豚ゼンノーD01の雄1頭、雌3頭を導入した。さらに、千葉県 (株) シムコからパークシャー種純粋種雄1頭、雌2頭を導入した。また、繁殖豚の分娩回数の加算による分娩頭数の減少に対し、自家育成豚の中から、優良なパークシャー種を選抜し更新することで、これらの繁殖豚から生産される優良な種子豚を安定的に供給し「おかやまポーク」並びに「おかやま黒豚」の生産に努めた。

また、岡山県豚精液供給センターとして県内の繁殖農家の要請に応じて人工授精用の豚精液を供給した。

(1) 豚の移動状況

単位：頭

| | 種・区分 | 性別 | 年度始頭数 | 受入頭数 | | | | 払出頭数 | | | | 年度末頭数 |
|---------|---------|-----|-------|------|----|-----|-----|------|-----|-----|-----|-------|
| | | | | 生産 | 編入 | 購入 | 計 | 譲渡 | 編出 | 死亡 | 計 | |
| 繁殖用登録豚 | パークシャー種 | ♂ | 5 | | 12 | 1 | 13 | 5 | | | 5 | 13 |
| | " | ♀ | 26 | | 4 | 2 | 6 | 3 | | 2 | 5 | 27 |
| | デュロック種 | ♂ | 5 | | 5 | 1 | 6 | 3 | | | 3 | 8 |
| | " | ♀ | 10 | | | 3 | 3 | 1 | | 3 | 4 | 9 |
| | 小計 | ♂ | 10 | | 17 | 2 | 19 | 8 | | | 8 | 21 |
| | | ♀ | 36 | | 4 | 5 | 9 | 4 | | 5 | 9 | 36 |
| 試験豚及び子豚 | | ♂ | 158 | 261 | | | 261 | 198 | | 79 | 277 | 142 |
| | | ♀ | 149 | 258 | | | 258 | 207 | | 26 | 232 | 174 |
| | 小計 | | 307 | 519 | | | 519 | 405 | | 105 | 509 | 316 |
| 合計 | | 353 | 519 | 21 | 7 | 547 | 417 | | 110 | 527 | 373 | |

注) 試験豚及び子豚の譲渡欄には種畜の譲渡頭数を含む。

(2) 種畜及び精液の譲渡状況

1) 種畜の譲渡状況

単位：頭

| 品 種 | 譲 渡 頭 数 | | |
|---------|---------|----|-----|
| | ♂ | ♀ | 計 |
| パークシャー種 | 9 | 79 | 88 |
| デュロック種 | 15 | 0 | 15 |
| 計 | 24 | 79 | 103 |

2) 精液の譲渡状況

単位：本

| 品 種 | 譲 渡 本 数 |
|---------|---------|
| パークシャー種 | 133 |
| デュロック種 | 1,696 |
| 計 | 1,829 |

4 鶏の飼養管理の概要

種鶏改良事業は、高品質肉用鶏「おかやま地どり」の母系種鶏として用いる卵肉兼用種2品種について、それぞれ閉鎖群育種理論に基づいて、生体重、産卵率、腹腔内脂肪量を基準に育種価により選抜を行い、系統保存と能力向上につとめた。

また、県民への鶏飼育の啓蒙・普及を図るため、卵肉兼用種の雛および種卵を供給した。

おかやま地どり素雛供給事業では、その素雛の安定供給を図った。

試験研究に用いた試験鶏の管理は、それぞれの試験設計に基づく飼養管理を行い、研究成果の向上に努めた。

(1) 飼養種禽の種類及び移動状況

1) 種禽の種類

| 種類 | 品 種 | 導入年 | 導 入 状 況 | 特 徴 |
|-------|-------------|---------------|-----------------|---------------|
| 鶏 | 横斑プリマスロック | 1974 | 福岡種鶏、佐賀鶏試から導入 | 卵肉兼用、肉質良 |
| | | 1996 | 兵庫牧場から雄を導入 | |
| | | 1999 | 兵庫牧場から導入 | |
| | ロードアイランドレッド | 1979 | 高田ロード園（岡山県）から導入 | 卵肉兼用 濃褐色卵殻 |
| | | 1995 | 兵庫牧場から雄を導入 | |
| | | 1999 | 兵庫牧場から導入 | |
| 烏 骨 鶏 | 1988 | 香川県畜試から導入 | 愛玩用、菓膳用 | |
| | 1994 | 兵庫牧場、県内農家から導入 | | |

2) 家禽の移動状況

単位：羽

| 区 分 | 雄 雌 | 年度当初 | 受 入 羽 数 | | | 払 出 羽 数 | | | | 年度末羽数 |
|-------|-----|-------|---------|-----|-------|---------|-----|-------|-------|-------|
| | | | センター育成 | 購入 | 計 | 譲渡 | 供試 | 死亡淘汰 | 計 | |
| 卵 用 種 | ♂ | 100 | 0 | 0 | 0 | 14 | 0 | 78 | 92 | 8 |
| | ♀ | 968 | 307 | 0 | 307 | 682 | 0 | 312 | 1,004 | 271 |
| | 計 | 1,068 | 307 | 0 | 307 | 706 | 0 | 390 | 1,096 | 279 |
| 卵肉兼用種 | ♂ | 624 | 682 | 0 | 682 | 509 | 0 | 797 | 1,306 | 0 |
| | ♀ | 1,869 | 1,039 | 0 | 1,039 | 1,906 | 0 | 817 | 2,723 | 185 |
| | 計 | 2,493 | 1,721 | 0 | 1,721 | 2,415 | 0 | 1,614 | 4,029 | 185 |
| 肉 用 種 | ♂ | 118 | 1,195 | 0 | 1,195 | 576 | 0 | 178 | 754 | 559 |
| | ♀ | 797 | 2,113 | 160 | 2,113 | 1,258 | 160 | 303 | 1,561 | 1,349 |
| | 計 | 915 | 3,308 | 0 | 3,308 | 1,834 | 0 | 481 | 2,315 | 1,908 |
| 雌 雄 計 | ♂ | 716 | 1,877 | 0 | 1,877 | 1,099 | 0 | 1,053 | 2,152 | 441 |
| | ♀ | 3,760 | 3,459 | 160 | 3,459 | 3,856 | 160 | 1,432 | 5,288 | 1,931 |
| 合 計 | | 4,476 | 5,336 | 160 | 5,336 | 4,955 | 160 | 2,485 | 7,440 | 2,372 |

(2) 種卵のふ化及び雛の処理状況

単位：個、羽

| 区 分 | | ふ 化 成 績 | | 雛 の 利 用 状 況 | | |
|-----|-------|---------|--------|----------------|-------------|-------|
| | | 入卵個数 | ふ化羽数 | センター育成 餌付羽数 | 初生雛 譲渡羽数 | 淘汰羽数 |
| 鶏 | 卵 用 種 | 689 | 621 | 309 | 0 | 312 |
| | 兼 用 種 | 6,747 | 4,885 | 4,022 | 0 | 683 |
| | 肉 用 種 | 46,066 | 35,830 | 2,520 | 24,313 | 8,997 |
| 合 計 | | 53,502 | 41,336 | 6,851 | 24,313 | 9,992 |

(3) 卵の生産及び処理状況

単位：個

| 区 分 | 前年度の繰越 | 生産個数 | 購入 個数 | 払 出 状 況 | | | | 次年度 へ繰越 | |
|-----|--------|---------|----------|---------|---------|--------|--------|------------|-------|
| | | | | 譲 渡 | 入 卵 | 供 試 | 廃 棄 | | |
| 鶏 | 種 卵 | 4,732 | 52,405 | 1,400 | 72 | 53,485 | 0 | 0 | 5,249 |
| | 食 卵 | 1,252 | 471,205 | 0 | 465,752 | 0 | 2,234 | 0 | 4,471 |
| | 全壊卵 | 0 | 18,170 | 0 | 0 | 0 | 0 | 18,170 | 0 |
| 合 計 | 5,986 | 542,047 | 1,400 | 465,824 | 53,485 | 2,234 | 18,170 | 9,720 | |

5 飼料作物の栽培及び草地の維持管理

飼料作物は、夏作はトウモロコシ及びスーダングラスを、冬作はイタリアンライグラスを主体に作付けしている。牧草は、オーチャードグラス主体の混播牧草を栽培し、ロールベールサイレイジに調製している。圃場管理は、トウモロコシ、スーダングラス、イタリアンライグラスを作付けする時に、堆肥を投入し、土作りを行っている。永年牧草は、一部管理の簡易なリードカナリーグラスを作付けした。

放牧場は、約20haで山地の地形を生かしたもので、主として繁殖和牛が利用している。

(1) 主要農機具 (県有)

| 農機具名 | 台数 | 備考 |
|------------|----|---|
| トラクタ | 7 | MF185, MF174-4, MF135, MF240, HF7610, カウンティ×2 |
| ハロー | 3 | 728MF, MF28型, デスク型 |
| ローターベータ | 3 | LA1200(コハク), KA201(コハク), KSD263(コハク) |
| ライムソア | 1 | TLS-300A型(スター) |
| ブロードキャスタ | 3 | PS402(ビコン), PS-805(ビコン), MBC40ワイドワイド |
| コーンplanter | 1 | TP46(コビントン) |
| カルチパッカ | 1 | タカキタ |
| ロータリーモア | 1 | MF51 |
| モアコンディショナ | 2 | KM165, FC250G(クーン) |
| アクロバットレーキ | 1 | ホイール型4連 |
| ディスクハロー | 1 | MF28 |
| モア | 2 | レシプロ型, ロータリー型 |
| ファームワゴン | 2 | 3t積み |
| フォレージハーベスタ | 1 | シリンダ型 |
| ロールベール | 1 | ROLLANT250(クラス) |
| 細断型ロールベール | 1 | MR-810 |
| マニュアルローダ | 1 | MF35-7 |
| ブームスプレイヤ | 1 | MTM1000ハーディ |
| マニュアルスプレッタ | 3 | DF3000デリカ |
| バキュームカー | 1 | スターTVC2500 |
| ロールベール解体機 | 1 | KD825(クバナランド・キッド) |
| レーキ | 1 | GA7301(クーン) |
| プラウ | 1 | VD95(リバーシブル型, 3連)(クバナランド) |

(2) 牧草、飼料作物の生産と利用仕向

(単位：t)

| 作物名 | 実面積(a) | 生草量 | サイレージ用 | 備考 |
|------------|--------|---------|---------|----------------|
| 混播牧草 | 1,432 | 471.5 | 471.5 | オーチャートグラス主体 |
| イタリアンライグラス | 884 | 355.2 | 355.2 | 普通種 |
| トゥモロコシ | 798 | 250.7 | 250.7 | |
| スーダングラス | 332 | 71.3 | 71.3 | ヘイスダグ |
| 牧草地 | 2,179 | 放牧利用 | — | 第1、第2放牧場、10号ほ場 |
| 計 | 5,625 | 1,148.7 | 1,148.7 | |

(3) 貯蔵飼料の生産量

ロールヘールサイレージ

(単位：t)

| 材料名 | 生産量 | 生草量 | 備考 |
|------------|-------|---------|-----------|
| 混播牧草 | 272.4 | 471.5 | ロールヘール |
| イタリアンライグラス | 163.4 | 355.2 | ロールヘール |
| トゥモロコシ | 250.7 | 250.7 | 細断型ロールヘール |
| スーダングラス | 42.8 | 71.3 | |
| 計 | 729.3 | 1,148.7 | |

V 公共育成センター

1 事業

優良家畜の繁殖、育成及び譲渡を行い、畜産農家の経営安定を図るために、優良牛放牧育成事業、飼料作物の栽培、草地の維持管理に必要な事業を実施した。

| 区 分 | 事 業 量 | 備 考 |
|-----------|---------|---------------------------|
| 優良牛放牧育成 | 55頭 | 肉用牛20頭，乳用牛35頭 |
| 飼料作物の栽培面積 | 11.30ha | 飼料作物（トウモロコシ・スーダングラス） |
| 草 地 面 積 | 58.98ha | 第1及び第2放牧場、1号～21号ほ場（6号を除く） |

2 建物施設及び機械

総合畜産センター内に保有する施設のうち、公共育成センターの建物施設及び機械は次のとおりである。

(1) 建物施設

| 区 分 | 数 量 | 面 積 | 内 容 |
|----------------------|---------|----------------------|--|
| 家畜保護施設 避難舎 | 3 | 2269.1m ² | 育成舎 524.7m ² 成牛舎（後代検定） 804.6m ² 成牛舎（肉用牛） 939.8m ² |
| 家畜保護施設 看視舎 | 3 | 147.0m ² | 49×3=147.0 |
| 飼料貯蔵施設 収納庫 サイロ | 1 1基 | 193.0m ² | 収納庫 200m ³ |
| 農 具 庫 | 2棟 | 465.6m ² | 第1農機具庫 262.6m ² 第2農機具庫 203.0m ² |
| 家畜保護施設 | 4棟 | 194.59m ² | 避難舎 3棟 H2年度 1棟 87.6m ² 堆肥舎 1棟 H3年度 3棟 106.99m ² |
| 衛生管理施設 | 2棟 | | ダニ駆除用薬剤散布施設 |

(2) 主要機械

| 品名 | 台数 | 型式 | 備考 |
|--------------|----|---|----|
| トラクター | 3 | MF3090-4、MF240、MF1042 | 団草 |
| ファームダンプ | 62 | 1 三菱ファームダンプ (2t積み) | 〃 |
| ショベルローダ | 63 | 1 三菱WS500 52PS (バケット容量0.8m ³) | 〃 |
| フルトレーラ | 63 | 1 DK10D 2型デリカ (2t積み) | 〃 |
| グラスシーダ | 63 | 1 SSPT-961型ブリオン (作業幅2.5m) | 〃 |
| レシプロモア | 63 | 1 BM1102型ブサテス | 〃 |
| モーアコンディショナ | 63 | 1 FC250ケン (作業幅2.5m) | 〃 |
| テッダレーキ | 63 | 1 リーロータス300型 (ジャイロ式) | 〃 |
| フォーレージハーベスタ | 62 | 1 フェアホリ-976型 (シリンダ型) フラップコントロールキット付 | 〃 |
| テッピングワゴン | 62 | 1 TWS-651L (8.5m ³ 容量) | 〃 |
| アンローディングボックス | 62 | 1 UBT-5420型 | 〃 |
| ハイベアラ | 63 | 1 MF4型 (作業幅1.75m) | 〃 |
| ベールワゴン | 63 | 1 YBS型吉田鉄工 (30梱包用) | 〃 |
| ベールローダ | 63 | 1 SPW-100型 | 〃 |
| マニユアスプレッタ | 63 | 1 DXT3300型デリカ | 〃 |
| フロントローダ | 63 | 1 MFL55A | 〃 |
| 洗車機 | 63 | 1 HW1105-1 | 〃 |
| スラリーレインスター | 63 | 1 RYOKUSANN65-250DS, BS65 | 〃 |
| ベールハンドラー | | 1 MB160 | 畜総 |
| テッダ | | 1 GF6031ケン (6連作業幅6.3m) | 〃 |
| ロールベアラ | | 1 RF1200C | 〃 |

注) 備考欄は対象補助事業名の略号で示す。

VI 畜産経営環境技術センター

1 事業

畜産経営の合理化及び経営環境の保全を図るため、家畜飼養に起因する環境汚染防止技術並びに家畜ふん尿処理技術を開発し、実証及び普及啓蒙に努めた。

(1) ふん尿処理利用状況

排出された家畜ふん尿は、各ゾーンに設置されているふん尿処理施設で処理し、土地還元を図った。また、地域から排出される生ゴミとの混合堆肥化による地域有機質資源リサイクルの構築を目的に、大家畜ゾーン内に設置したスクープ型堆肥舎を使用し、美咲町（旭地区）及び近隣事業所から生ゴミを受け入れ、堆肥化を行った。なお、大家畜ゾーンにおける堆肥化施設及び堆肥舎の管理運営は(社)岡山県畜産公社に委託した。

家畜別生ふん量及び堆肥生産・利用量（単位：t）

| 区 分 | 生ふん量 | 堆肥生産量 | 堆肥利用量 |
|-------------|---------|---------|-------|
| 大家畜ゾーン（牛ふん） | 2,814.8 | 1,666.0 | 959.9 |
| 〃（生ゴミ） | 90.9 | | |
| 養鶏ゾーン（鶏ふん） | 38.8 | 36.9 | 36.9 |
| 養豚ゾーン（豚ふん） | 98.5 | | |
| 合 計 | 3,043.0 | 1,702.9 | 996.8 |

(2) 畜産環境汚染防止業務実施状況

家畜ふん尿処理利用に伴う環境汚染防止のため、センター内調整池の水質検査を実施したところ特に問題は認められなかった。

水質調査件数

| 項目 | pH | EC | COD | BOD | SS | 大腸菌 | T-N | T-P |
|----|----|----|-----|-----|----|-----|-----|-----|
| 件数 | 12 | 12 | 12 | 12 | 12 | 12 | 12 | 12 |

(3) 畜産環境汚染防止技術の開発、実証展示及び普及啓蒙

循環型社会の構築を目指し、豚ふん尿と地域から排出される生ゴミを利用した畜産バイオマス利活用実証展示施設において、電気や熱のエネルギー回収技術や消化液処理技術の実証試験を行った。さらに、スクープ型堆肥化施設においても、家畜ふんと生ゴミを使った混合堆肥化による実証試験を行い、地域内における有機質資源の循環システム確立を図った。また、両施設とも積極的に視察者を受け入れることにより、資源循環に対する普及、啓蒙が図られた。

2. 施設及び機械

総合畜産センターが保有する施設の内、畜産経営環境技術センターに係わる施設及び機械は次の通りである。

(1) 施設

| 位 置 | 名 称 | 棟 数 | 面 積 |
|--------|------------|-----|-----------------------|
| 大家畜ゾーン | スクープ型堆肥化施設 | 1式 | 878.0m ² |
| | ふん乾燥施設 | 1式 | 1,470.5m ² |
| | 堆肥舎 | 1式 | 869.0m ² |
| | 汚水処理施設 | 1式 | 355.7m ² |
| | 家畜焼却場 | 1式 | 126.8m ² |
| 養豚ゾーン | 汚水処理施設 | 1式 | 130.8m ² |
| | ふん発酵施設 | 1式 | 625.9m ² |
| | 植物濾床 | 1式 | 480.0m ² |
| 養鶏ゾーン | 乾燥処理施設 | 1式 | 493.6m ² |
| | 汚水処理施設 | 1式 | 365.9m ² |

(2) 作業機

| 機 器 名 | 保有数 | 型 式 |
|----------|-----|-------------------------------|
| 畜ふん運搬車 | 3 | 2トントラック (4WD、ステンレスボディ) |
| 牛ふん切り返し機 | 2 | ホイルローダー (WS210、65Z2) |
| 豚ふん切り返し機 | 2 | ホイルローダー (WS-200A、ショブ*#2SDK-6) |
| 豚ふん運搬車 | 1 | 軽4ダンプトラック (4WD M-DB71T) |
| トラックタンカー | 1 | バキュームカー (4WD 4トン車) |
| 動力運搬車 | 2 | 4輪式ステンレスボディー (4WD) |
| 鶏ふん切り返し機 | 2 | ホイルローダー (WA-20-1、WA20-2E) |

VII 農業大学校旭分校

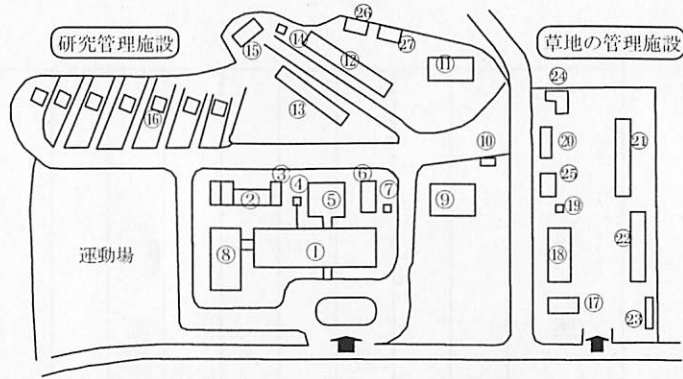
県立の農業大学校旭分校として、畜産課程9名の教育を行った。

| 期 間 | 専攻 | 氏 名 | 出 身 校 |
|--------------------|--------|--------|----------|
| H20. 4 ～H20. 12 | 中小 | 田中 愛美 | 兵庫県立農業高校 |
| | | 山室 博基 | 高梁城南高校 |
| H21. 1 ～H21. 3 | 和牛 | 岡村 輝之 | 興陽高校 |
| | | 小野田 聖吾 | 久世高校 |
| | | 川口 哲也 | 瀬戸南高校 |
| | | 佐々木 亮太 | 新見高校 |
| | 山崎 健太郎 | 久世高校 | |
| 中小 | 鷹野 雅美 | 高松農業高校 | |
| | 新田 和洋 | 高松農業高校 | |

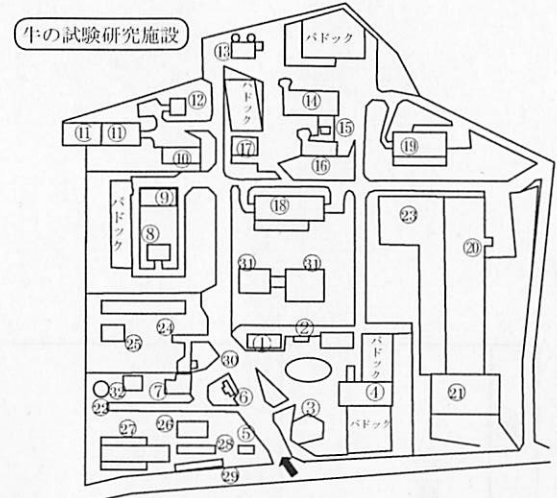
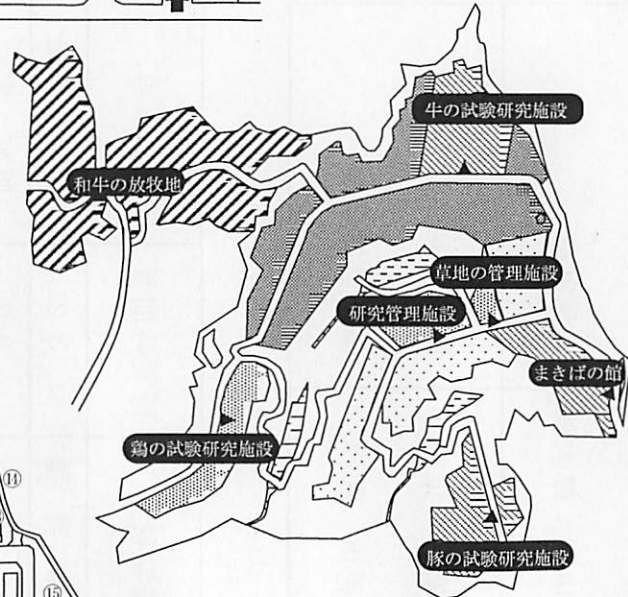
授業科目

| 学 年 (専 攻) | 授業科目 | 授業時間数 | 担 当 講 師 |
|-----------------------|---------|-------|---------------|
| 2年生 (中 小) | 家畜育種 | 3 2 | 山田 徹夫 |
| | 家畜疾病 | 3 2 | 西家 忠治 |
| | 草地管理 | 3 2 | 長尾 伸一郎 |
| | 家畜環境保全 | 3 2 | 白石 誠 |
| | 生物工学実験Ⅱ | 1 6 | 中原 仁 |
| | 研 究 ゼ ミ | 2 0 | 山田 徹夫 |
| | 専 攻 実 習 | 6 4 4 | 環境家畜部職員 |
| 1年生 (和 牛) (中 小) | 家畜管理 | 3 2 | 笹尾 浩史 |
| | 家畜繁殖 | 2 8 | 山田 徹夫 |
| | 畜産物利用論 | 1 6 | 横内 百合香 |
| | 専 攻 実 習 | 5 2 0 | 和牛改良部・環境家畜部職員 |

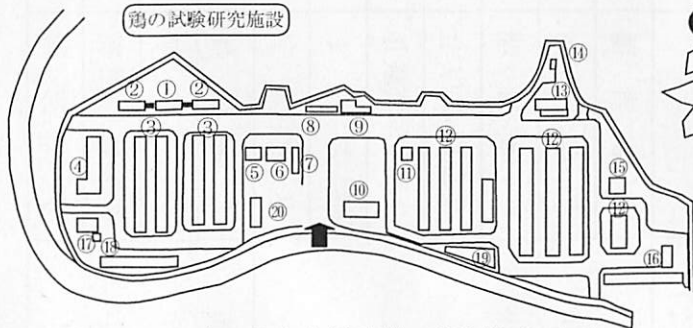
【付】
主な施設



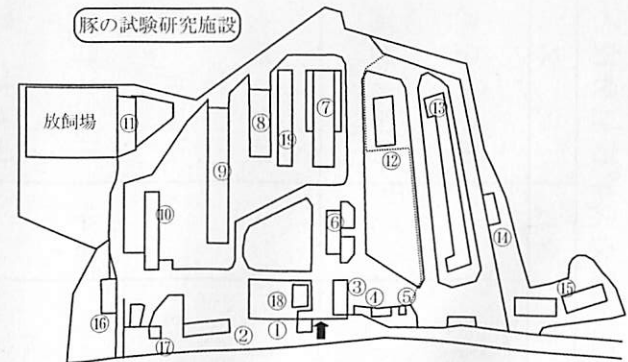
- | | |
|-----------|----------|
| ① 研究管理棟 | ⑬ 浄化槽 |
| ② 車庫 | ⑭ 事務所 |
| ③ 自転車置き場 | ⑮ 収納舎 |
| ④ ⑦ ⑪ ガス室 | ⑯ 給油庫 |
| ⑤ 機械室棟 | ⑰ 洗車場 |
| ⑥ 電気室 | ⑱ ⑲ 農機具庫 |
| ⑧ 研修館 | ⑳ ガラス室 |
| ⑨ 畜産物加工室 | ㉑ 気象観測施設 |
| ⑩ 焼却炉 | ㉒ 農大教室 |
| ⑪ 研修寮 | ㉓ 農大学生寮 |
| ⑫ ⑬ 職員公舎 | |



- | | | | |
|------------|-----------|-----------|----------------------|
| ① 現場事務所 | ⑨ 供卵牛舎 | ⑰ 衛生舎 | ㉕ 直接牛舎 |
| ② 車庫・農機具庫 | ⑩ 消化試験牛舎 | ⑱ 肉用牛試験牛舎 | ㉖ 精液採取保管室 |
| ③ 特用畜舎 | ⑪ 肥育牛舎 | ⑲ 哺育牛舎 | ㉗ 種雄牛舎 |
| ④ 育成畜舎 | ⑫ 観察牛舎 | ⑳ 糞乾燥施設 | ㉘ 強制運動器 |
| ⑤ 電気室 | ⑬ 気密サイロ | ㉑ 堆肥舎 | ㉙ 種雄牛繋留場 |
| ⑥ トラックスケール | ⑭ 後代検定牛舎 | ㉒ 尿処理施設 | ㉚ 作業舎 |
| ⑦ 収納庫 | ⑮ 牛乳処理室 | ㉓ スクープ堆肥舎 | ㉛ 繁殖牛舎 |
| ⑧ 受精卵処理室 | ⑯ 乳用牛試験牛舎 | ㉔ 後代検定牛舎 | ㉜ 低コスト汚水処理 実証展示施設 |



- | | | |
|------------|---------|----------|
| ① 育すう舎 | ⑧ 家禽展示場 | ⑮ ⑰ 器具洗場 |
| ② 中すう舎 | ⑨ 車庫 | ⑯ 鶏ふん処理舎 |
| ③ 大すう舎 | ⑩ 飼料庫 | ⑰ 汚水処理施設 |
| ④ 環境調整育すう舎 | ⑪ ズートロン | ⑱ 放飼場 |
| ⑤ ふ卵舎 | ⑫ 成鶏舎 | ⑳ 自家発電室 |
| ⑥ 鶏卵肉処理舎 | ⑬ 水禽舎 | |
| ⑦ 技術員事務所 | ⑭ 解剖室 | |



- | | | | |
|-----------|-------------|------------------------|----------|
| ① ゲート消毒装置 | ⑥ 試験豚舎 | ⑩ 地域特産用豚舎 | ⑮ 土壤植物遮床 |
| ② 倉庫・飼料庫 | ⑦ 繁殖豚舎 | ⑫ 畜産バイオマス利 活用実証展示施設 | ⑯ 隔離豚舎 |
| ③ 現場事務所 | ⑧ 分婣子豚育成豚舎 | ⑬ 糞尿発酵施設 | ⑰ 豚出荷台 |
| ④ 車庫 | ⑨ 肥育・後代検定豚舎 | ⑭ 汚水処理施設 | ⑱ 電気室 |
| ⑤ 焼却炉 | ⑩ 直接検定豚舎 | | ㉙ A I 豚舎 |